

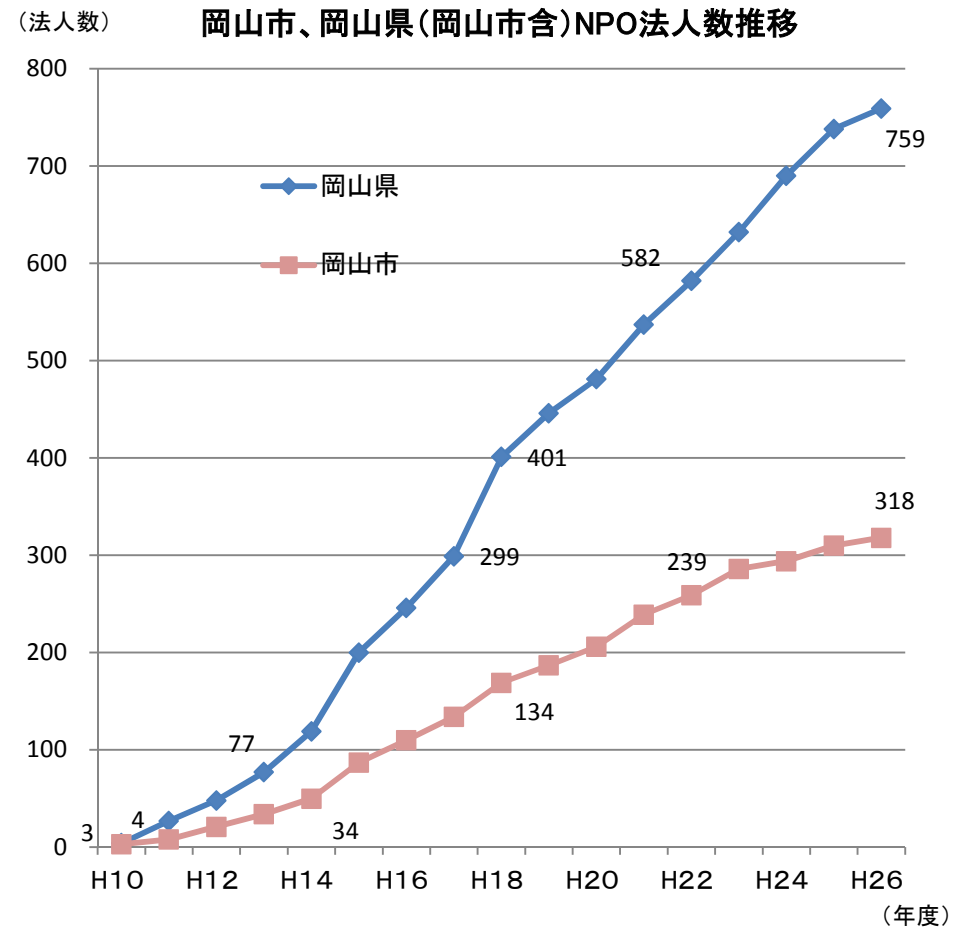
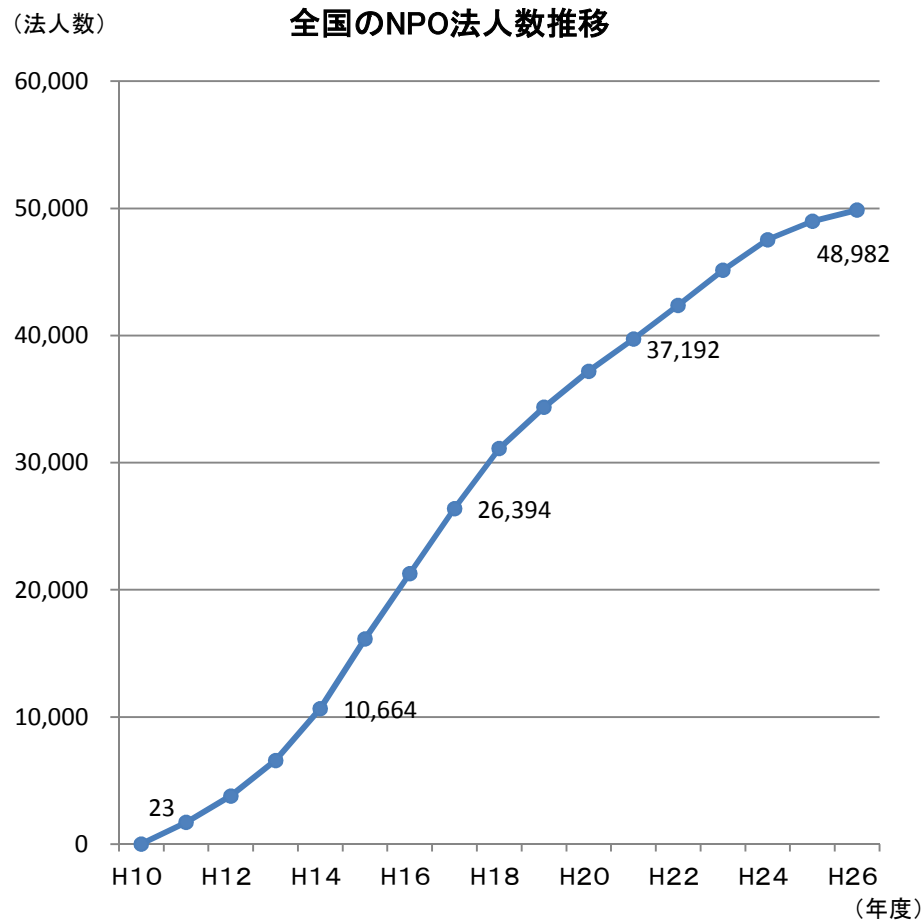
平成27年度  
第2回基本政策審議会資料

～市民生活の向上と岡山の担い手づくり～

④市民協働・ESD、安全・安心

# NPO法人数の推移

- 平成10年度の特定非営利活動促進法の制定後、16年間で全国のNPO法人は約50,000法人に増加した。
- 岡山市内のNPO法人は特定非営利活動促進法の制定後、急速に設立され、平成26年度で約320法人になる。
- 岡山県内のNPO法人の約半数が岡山市にある。

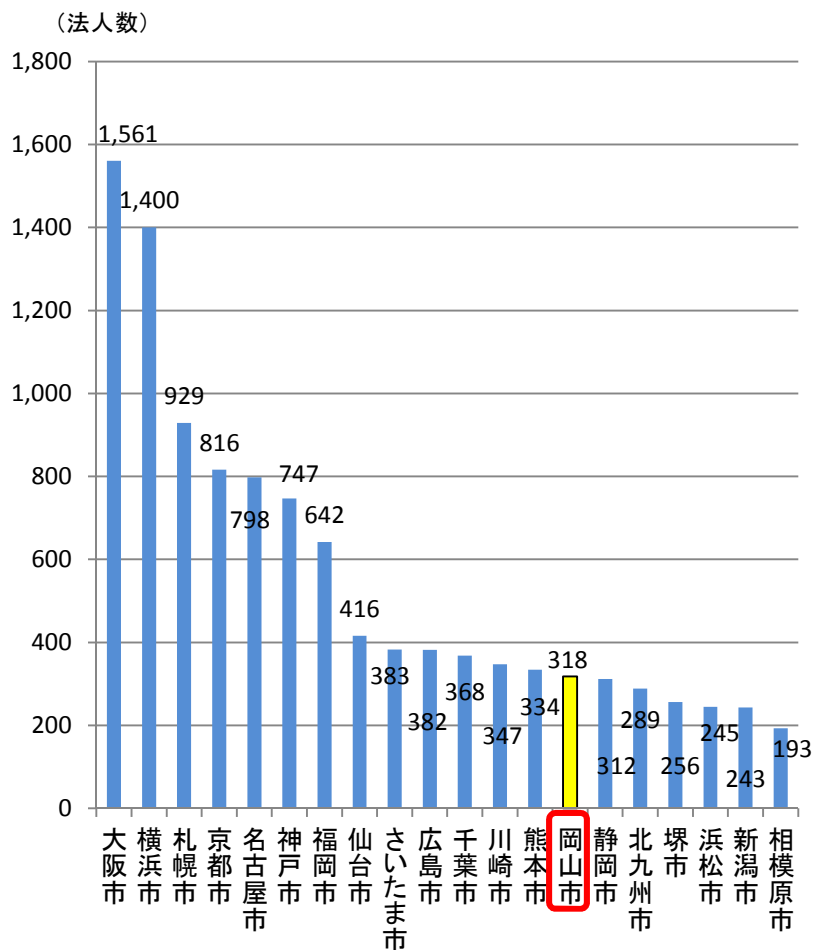


※内閣府提供のデータをもとに市民協働局で作成。平成26年度は平成27年1月末現在値。

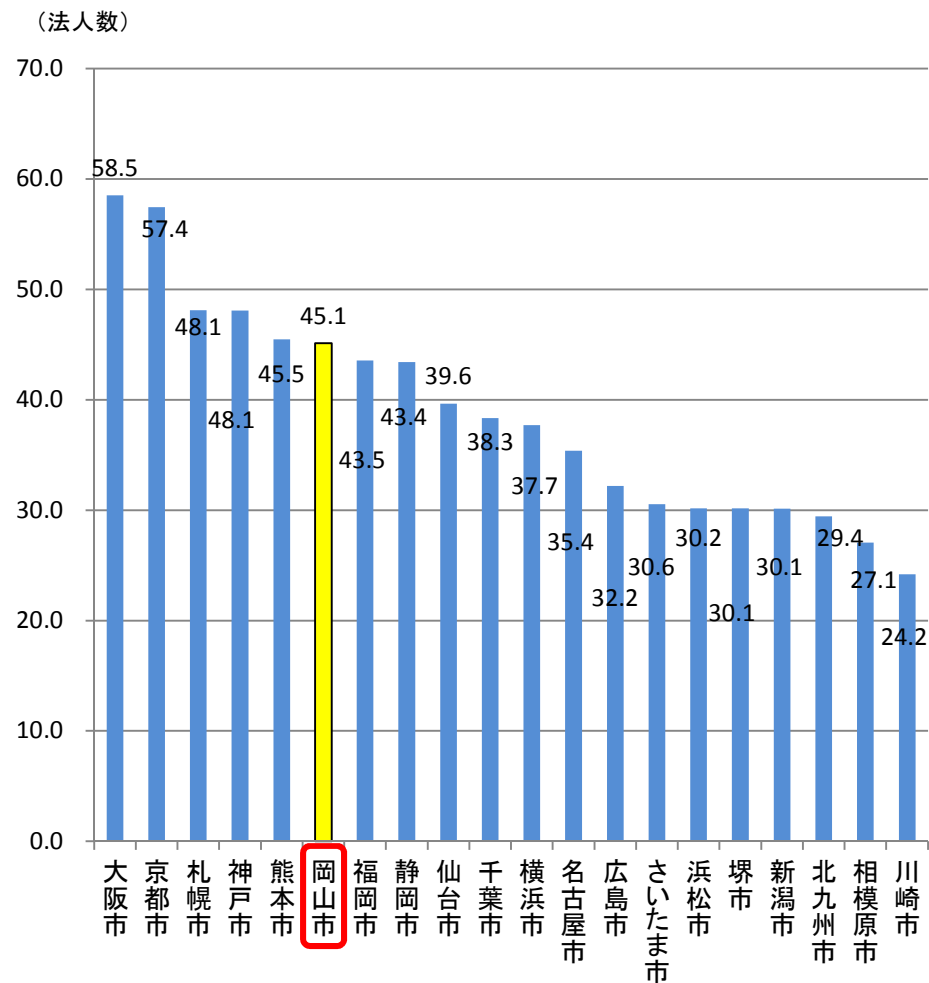
# 指定都市別 NPO法人数

- 岡山市所轄のNPO法人の数は、指定都市の中で14番目に多い。
- 人口10万人当たりのNPO法人の数は45.1法人であり、指定都市の中で6番目に多い。

### NPO法人数比較



### 人口10万人当たりのNPO法人数比較

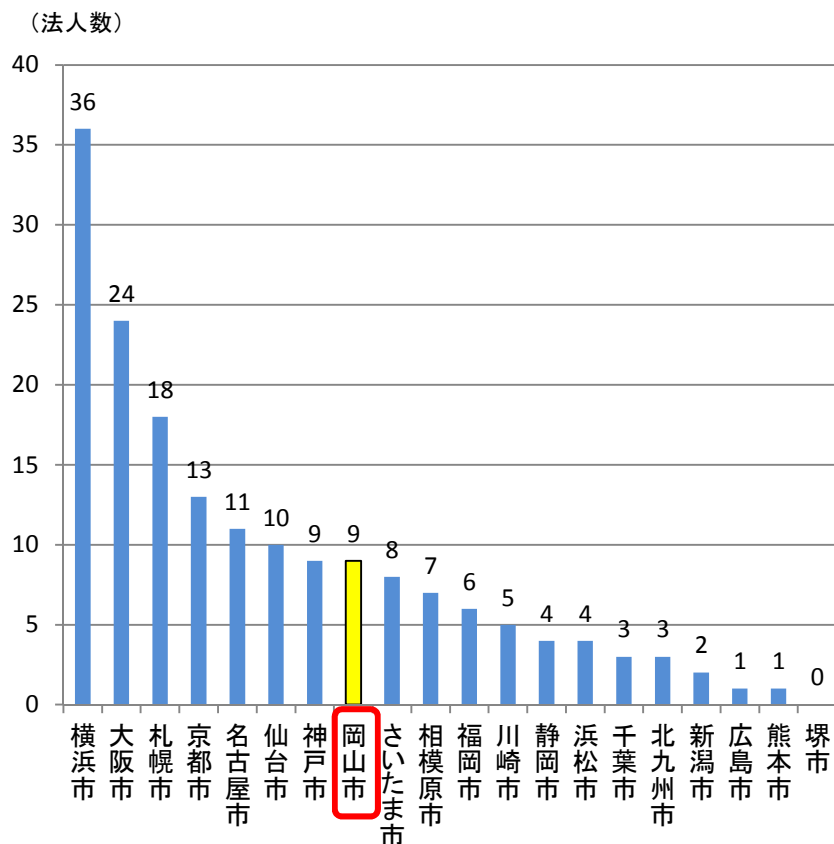


※内閣府提供の平成27年1月末の法人数をもとに岡山市市民協働局で作成。

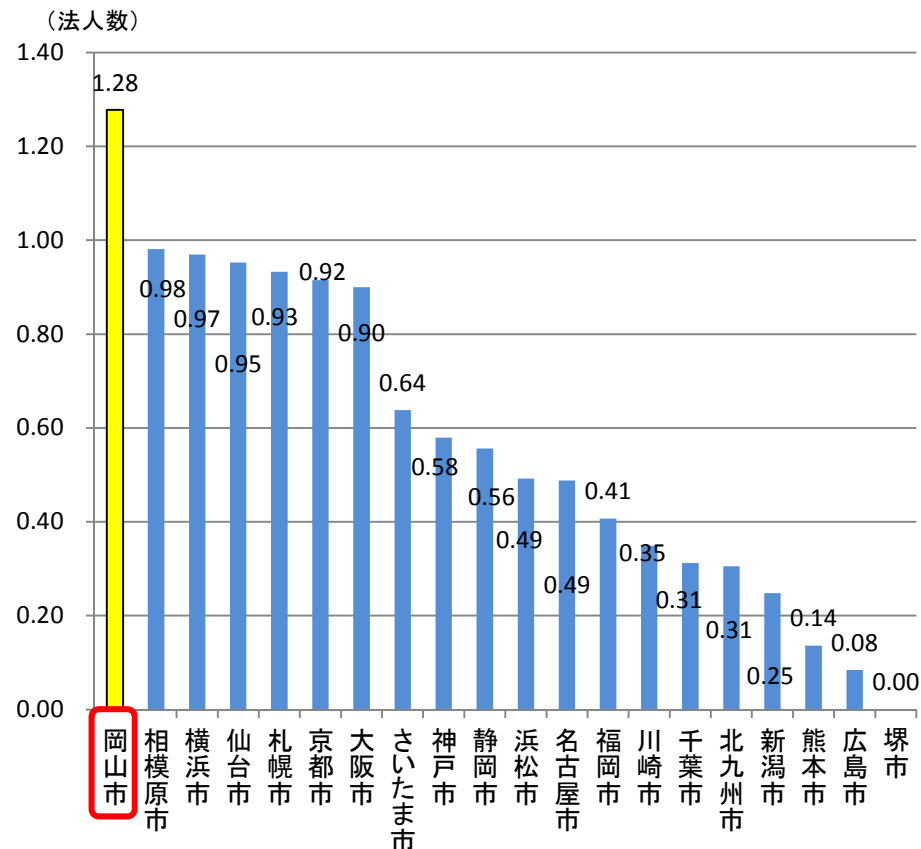
# 指定都市別 認定NPO法人数

- 岡山市の認定NPO法人は9法人であり、指定都市の中では8番目に多い。
- 人口10万人当たりの認定NPO法人は1.28法人であり、指定都市の中で最も多い。

認定NPO法人数比較



人口10万人当たりの認定・仮認定法人数比較



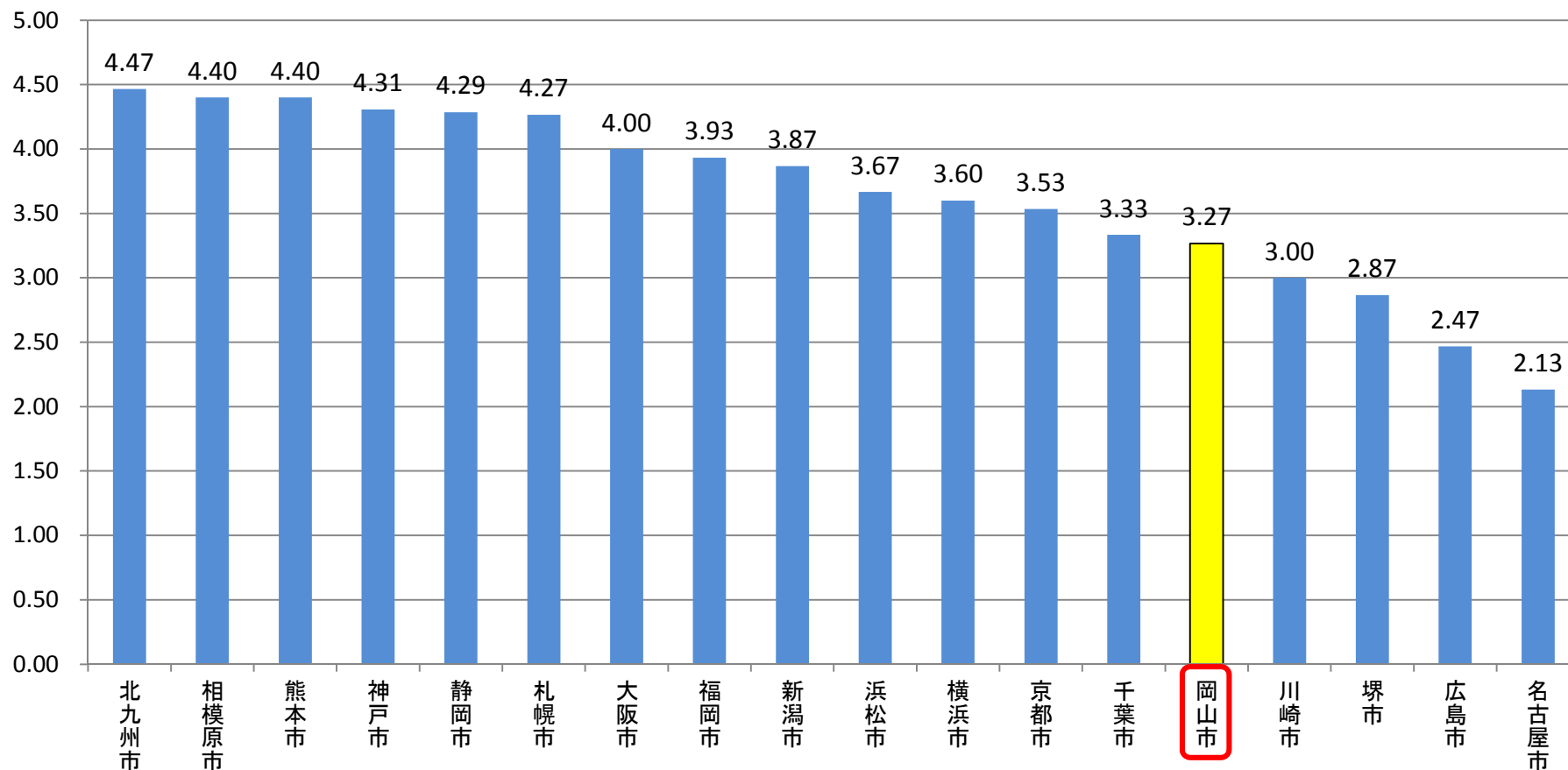
※内閣府提供の平成27年1月末の認定・仮認定NPO法人数をもとに岡山市市民協働局で作成。認定NPO法人数には国税庁認定を含む(但し国税庁の認定数は平成27年2月1日現在)。

※認定NPO法人には、仮認定NPO法人を含む。

※認定NPO法人とは、幅広く市民からの寄付を受けているなどの基準をクリアしたNPO法人。当該法人への寄付者は税法上の優遇措置を受けることができる。仮認定NPO法人とは、認定基準の一部を免除し、認定を取得しやすくするため設けられた制度により認定されたNPO法人。

# 指定都市別「協働環境」の現状

○岡山市の官民協働を生み育てる「協働環境」(協働のしやすさ)は指定都市で16番目である。



★次の調査結果のデータをもとに、関連指標について政令市の平均点(6点満点)を出して比較できるように岡山市市民協働局で作成。

## 「第5回都道府県、主要市におけるNPOとの協働環境に関する調査」

○調査の概要 実施主体：IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所] 事務局：NPO法人岡山NPOセンター

調査対象：都道府県、県庁所在地市、政令市、中核市その他255自治体 調査期間：平成26年6月～9月

調査目的：適切な官民協働を生み育てる「協働環境」(協働のしやすさ)を定量的に明らかにすることで現状と課題を把握し具体的な改善を促す。

調査方法：自治体のウェブサイト等に公開されている情報を調査事務局並びに各地の中間支援組織により情報収集し、評価指標にあてはめて採点。採点入力した調査票を自治体に送付し確認・修正依頼。その後評価基準を統一するための追加調査等を行い確定。

評価指標：各設問について6点満点の指標を策定し採点。

# 岡山市の「協働環境」の課題（指定都市平均と比較）

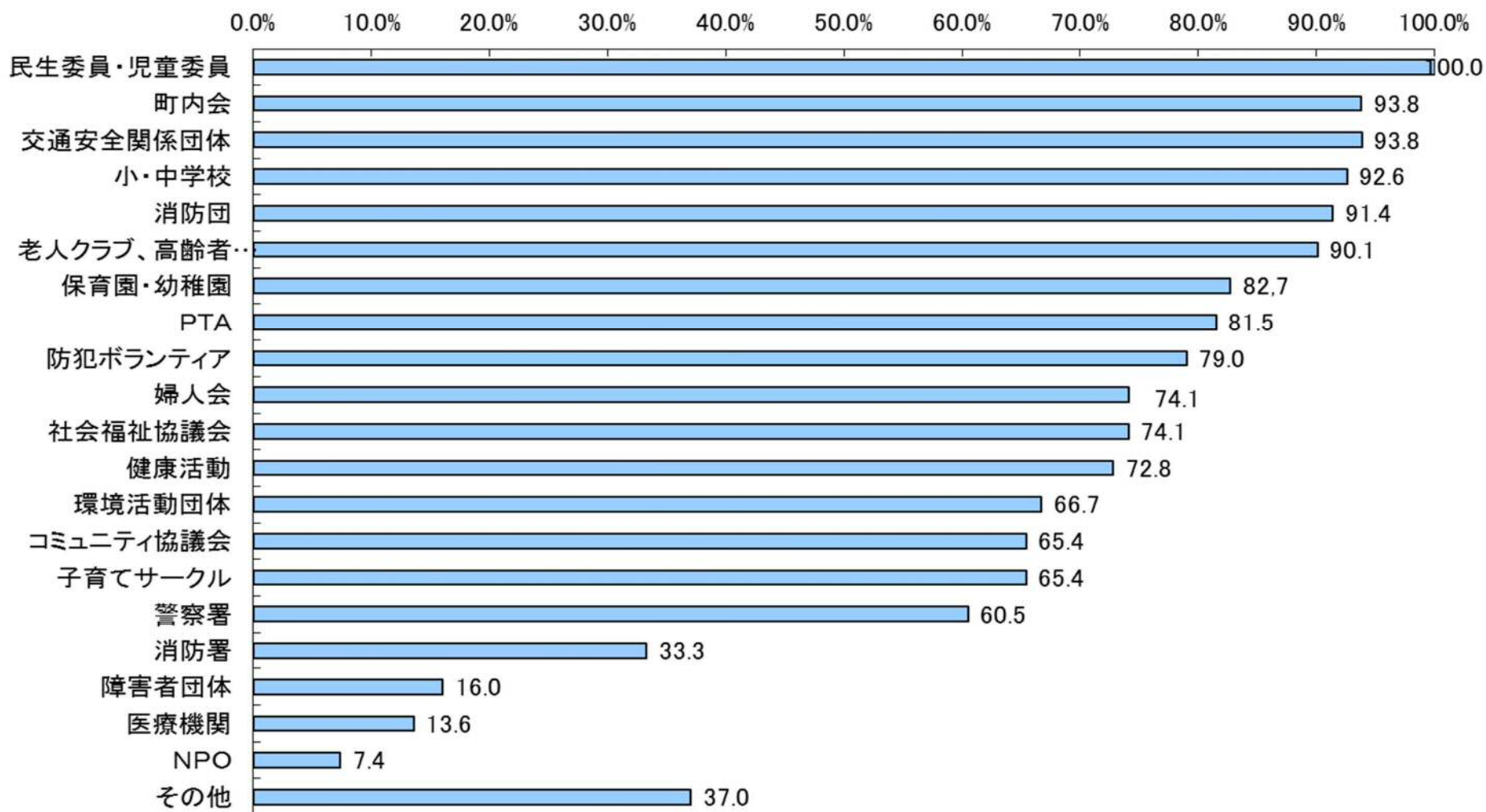
○岡山市では、協働をしきみにするためのプロセスの公開、評価・見直しへの市民参画、協働事例の公開・活用、協働事例の選考結果のフィードバックなどが遅れている。



資料：「第5回都道府県、主要市におけるNPOとの協働環境に関する調査」結果から指定都市結果データを抜粋し作成

# 安全・安心ネットワークの構成団体

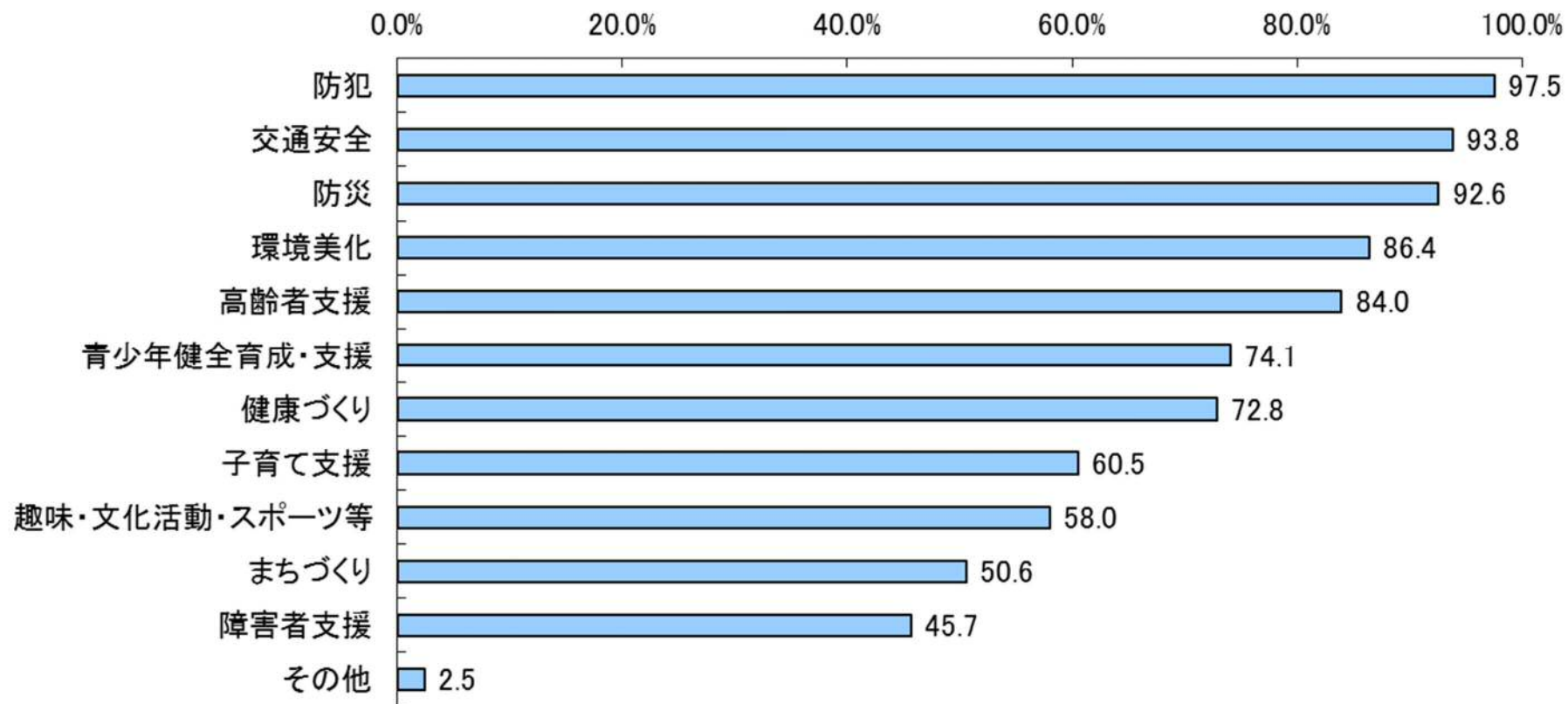
○構成団体は、町内会、民生委員・児童委員等、地域住民組織が中心となっており、NPO、企業等地域住民組織以外の参加が進んでいない。



資料:安全・安心ネットワーク活動状況調査(H25年実施)

# 安全・安心ネットワークの活動分野

○安全・安心ネットワークは、防犯、交通安全、防災、環境美化、高齢者支援等の地域活動に取り組んでいる。

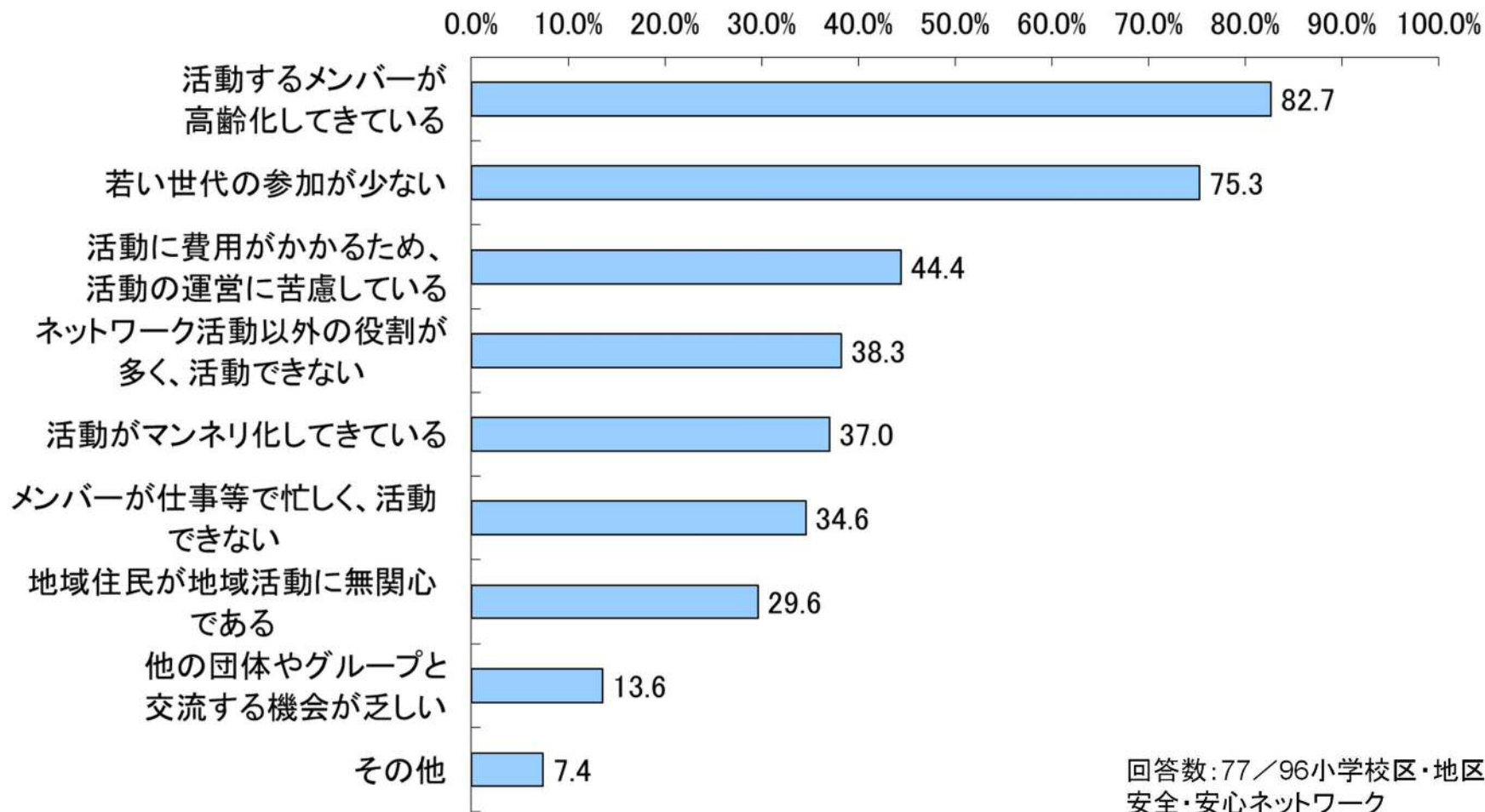


回答数: 77 / 96小学校区・地区  
安全・安心ネットワーク

資料: 安全・安心ネットワーク活動状況調査 (H25年実施)



○地域活動の担い手の高齢化や、若年層の参加を課題としている地域が多い。

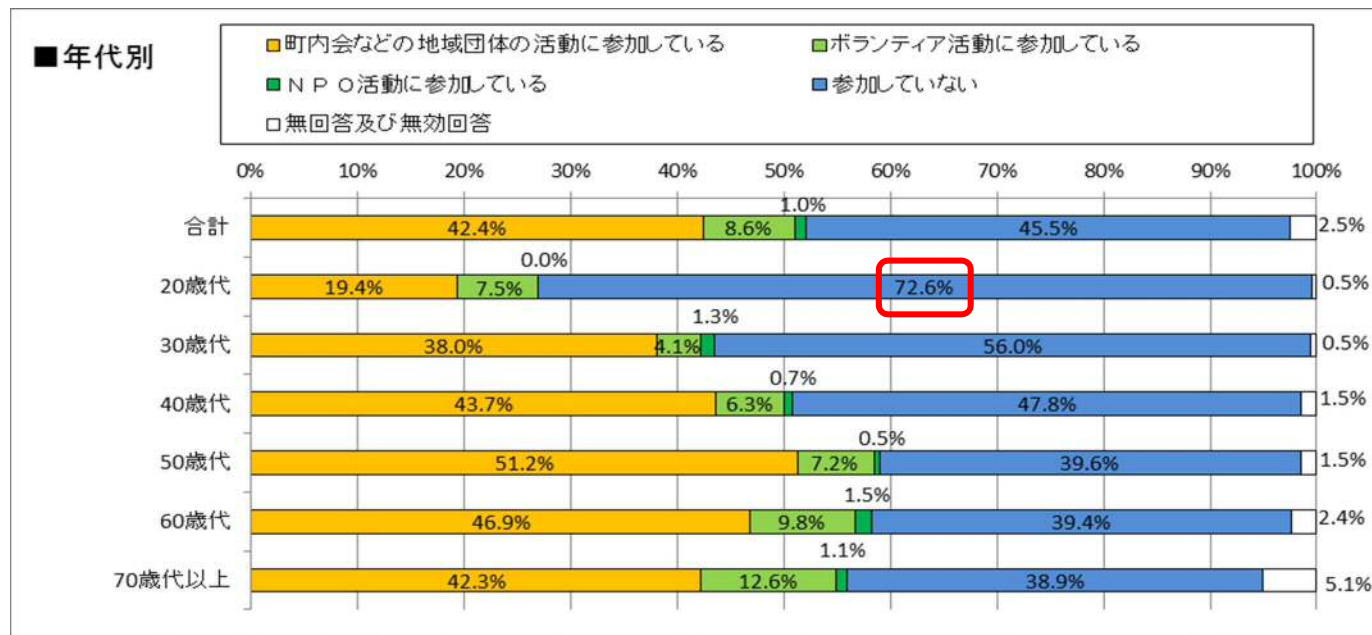
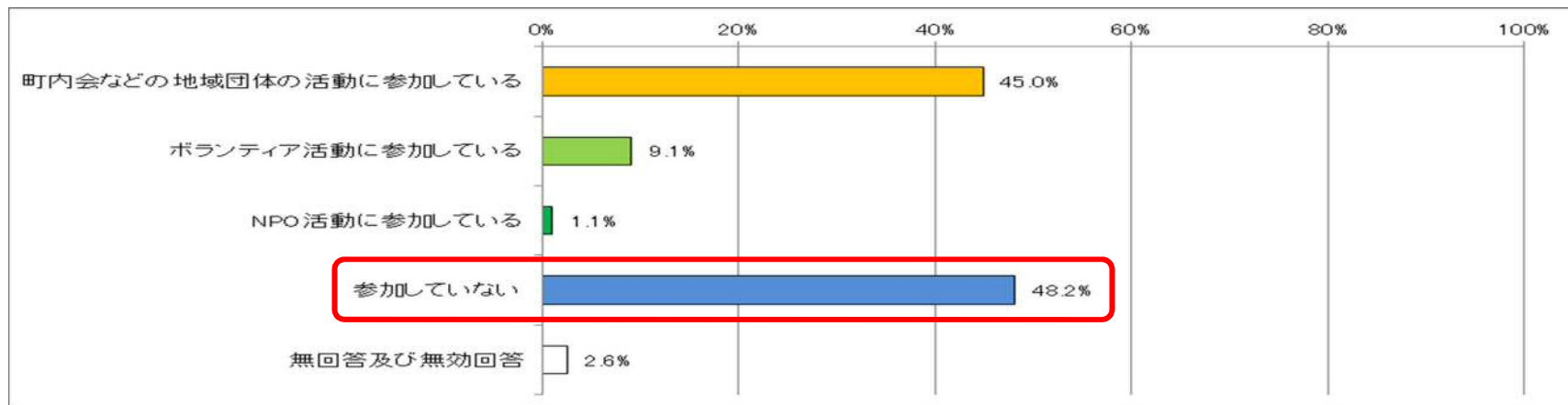


資料:安全・安心ネットワーク活動状況調査(H25年実施)

# 市民の地域活動への参加状況(市民意識調査)

- 平成25年度岡山市市民意識調査によると、全体の48.2%の人は、地域活動に参加していない。
- 地域活動に参加していない人の割合が最も高いのは20歳代で72.6%にのぼる。

【問】あなたは地域活動に参加していますか。(複数回答)



第15回  
平成25年度岡山市市民意識調査  
N=2,525

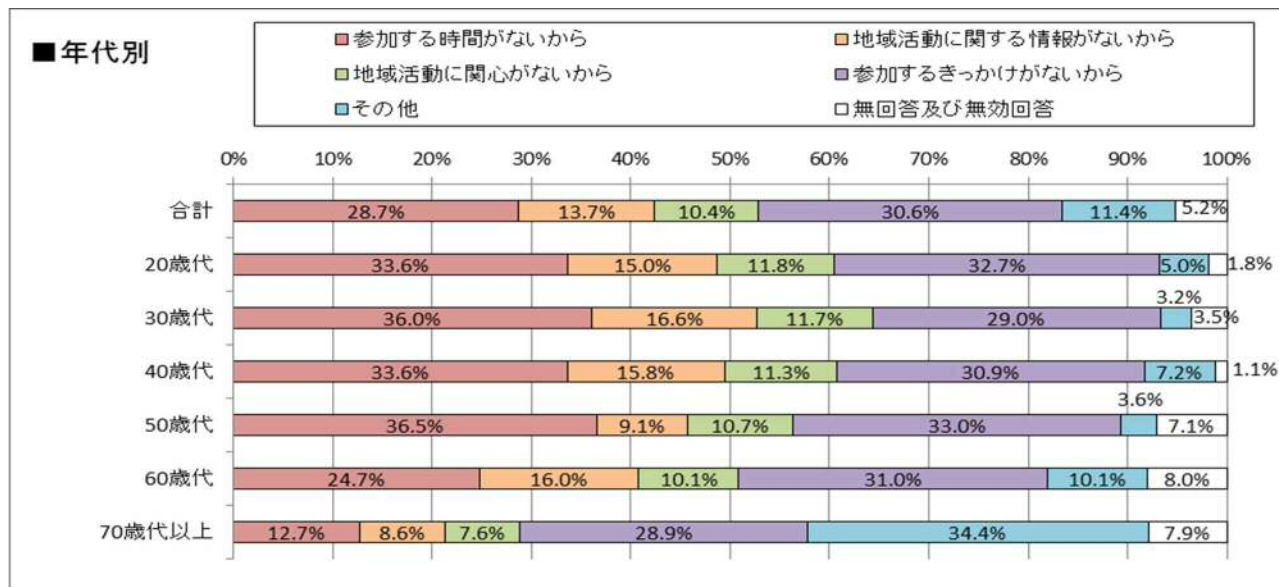
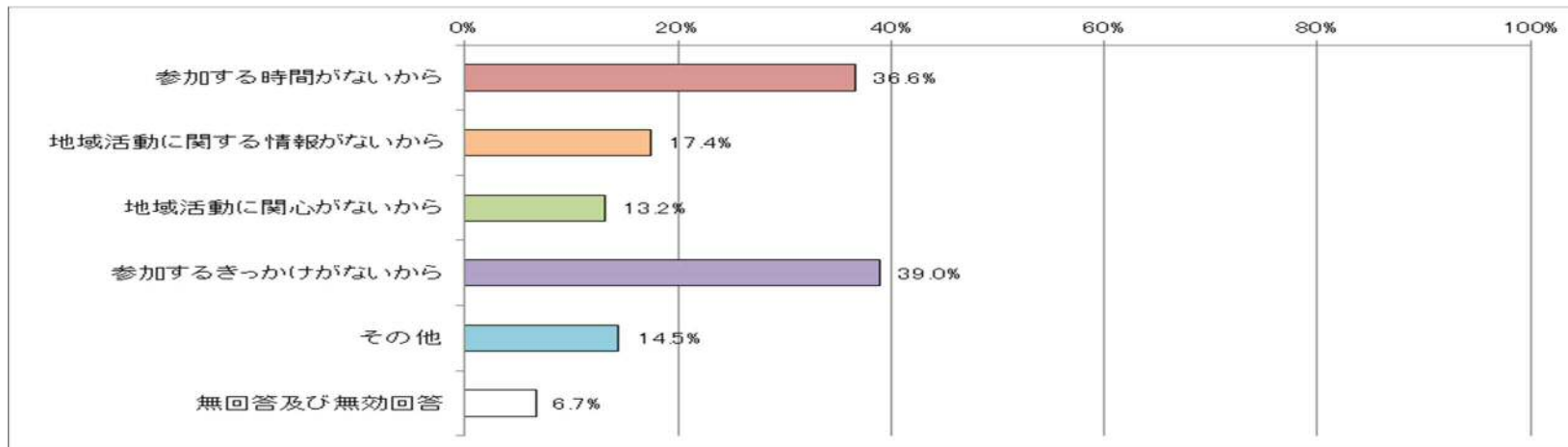
調査日：平成25年8月22日  
～9月20日

調査対象：住民台帳から無作為抽出した20歳代以上の5,000人  
回収：2,525人(回収率20.5%)

# 市民が地域活動に参加していない理由（市民意識調査）

○平成25年度岡山市市民意識調査によると、「参加するきっかけがないから」が39.0%と最も多く、「参加する時間がないから」が36.6%と2番目に多い。  
 ○20代から50代までは「参加する時間がないから」が60代以上の年代に比べ高い。

【問】地域活動に参加していない理由はなんですか。（複数回答）



第15回  
 平成25年度岡山市市民意識調査  
 N=1,216

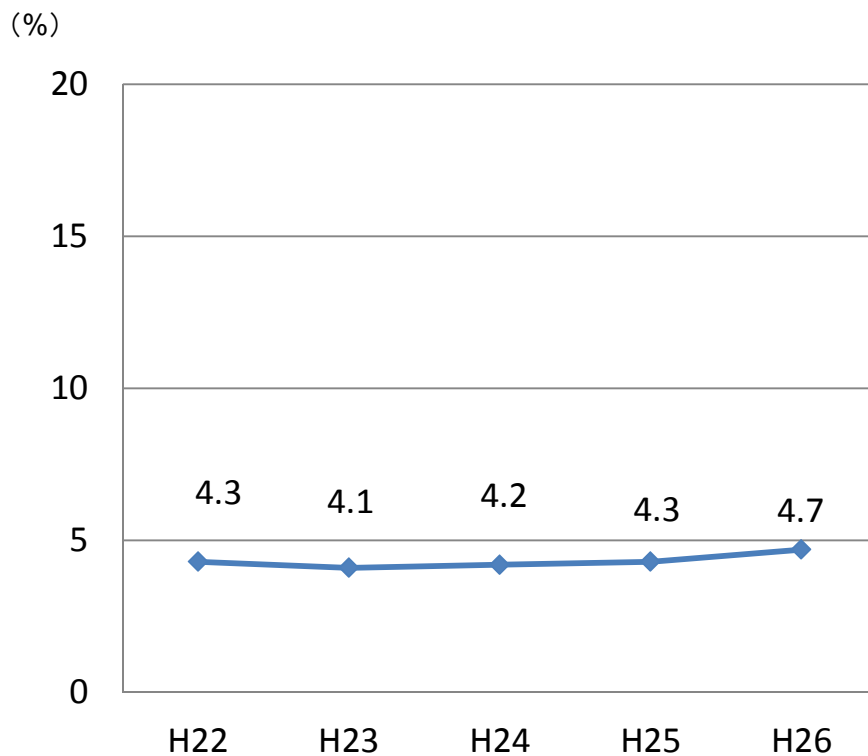
調査日：平成25年8月22日～9月20日  
 調査対象：住民台帳から無作為抽出した20歳代以上の5,000人  
 回収：2,525人（回収率20.5%）

注）年代別の表は、全体を100とした場合の割合

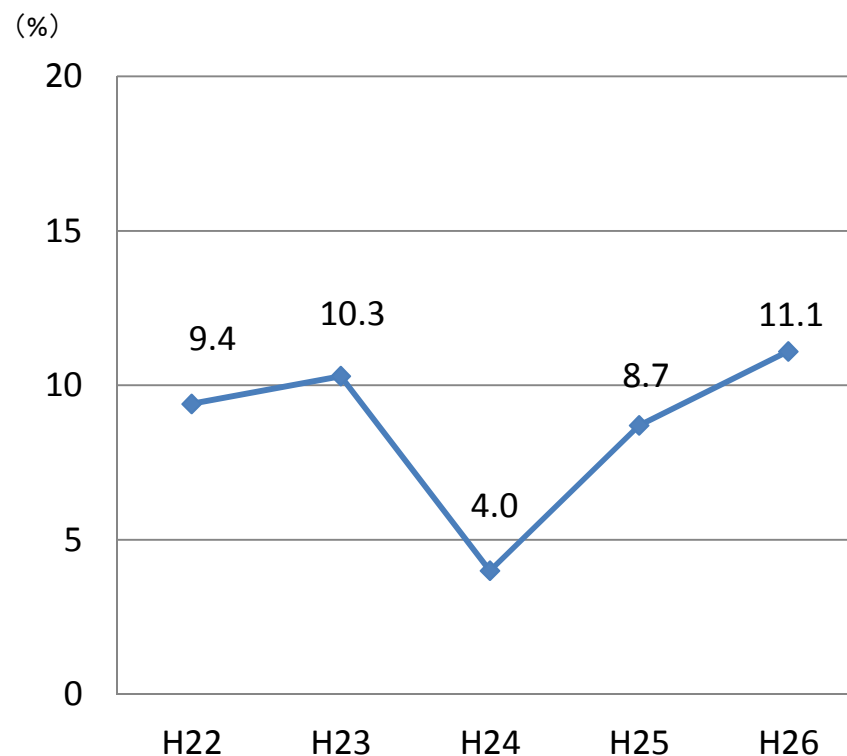
# 岡山市における女性の活躍状況

○単位町内会及びPTA会長職における女性の割合は、横ばいの状態で増加していない。

### 女性の単位町内会長の割合



### 女性のPTA会長の割合



資料：岡山市「新さんかくプラン・第3次さんかくプラン行政評価」

# ESD推進の基盤が充実した岡山地域



○岡山地域は、国連大学と連携した「ESD推進のための地域拠点(RCE)」に2005年、世界で最初に認定されるとともに、10年間に及ぶ公民館の取組、ユネスコスクールを中心とした学校での取組、ユネスコスクールを支援する大学間ネットワーク(ASPUnivNet)への参加大学(岡山大学)の存在など、ESDを進める基盤が充実している。

## ●国連大学ESD推進のための地域拠点(RCE)

岡山、仙台広域圏、兵庫-神戸、横浜、中部、北九州 6地域 (世界135地域)  
 ※RCE岡山の参加団体数 228団体(2015.4月)

## ●公民館におけるESD関連事業の実施率 岡山市100%

公民館を拠点とするESD活動が推進されている。

## ●ユネスコスクール

岡山市51校(申請中を含む) ※全国913校(2015.4月)

## ●文部科学省 ESD学校コンソーシアム

(グローバル人材育成のためのESD推進事業対象団体)  
 岡山市教育委員会、中部大学、法政大学  
 千葉大学、新居浜市教育委員会 他5団体

## ●ASPUnivNet(ユネスコスクールを支援する大学間ネットワーク)

(加盟大学)岡山大学、金沢大学、奈良教育大学他15大学



<国内の取組>

## ●ESDの推進に関する条例の制定 全国で岡山市のみ

※正式名称「持続可能な開発のための教育の推進に関する条例」  
 愛称「E(えーものを)S(子孫の)D(代まで)条例」(第3条)

## ●ESD担当部署を設置している自治体 岡山市と北九州市のみ

## ●ESD認知度

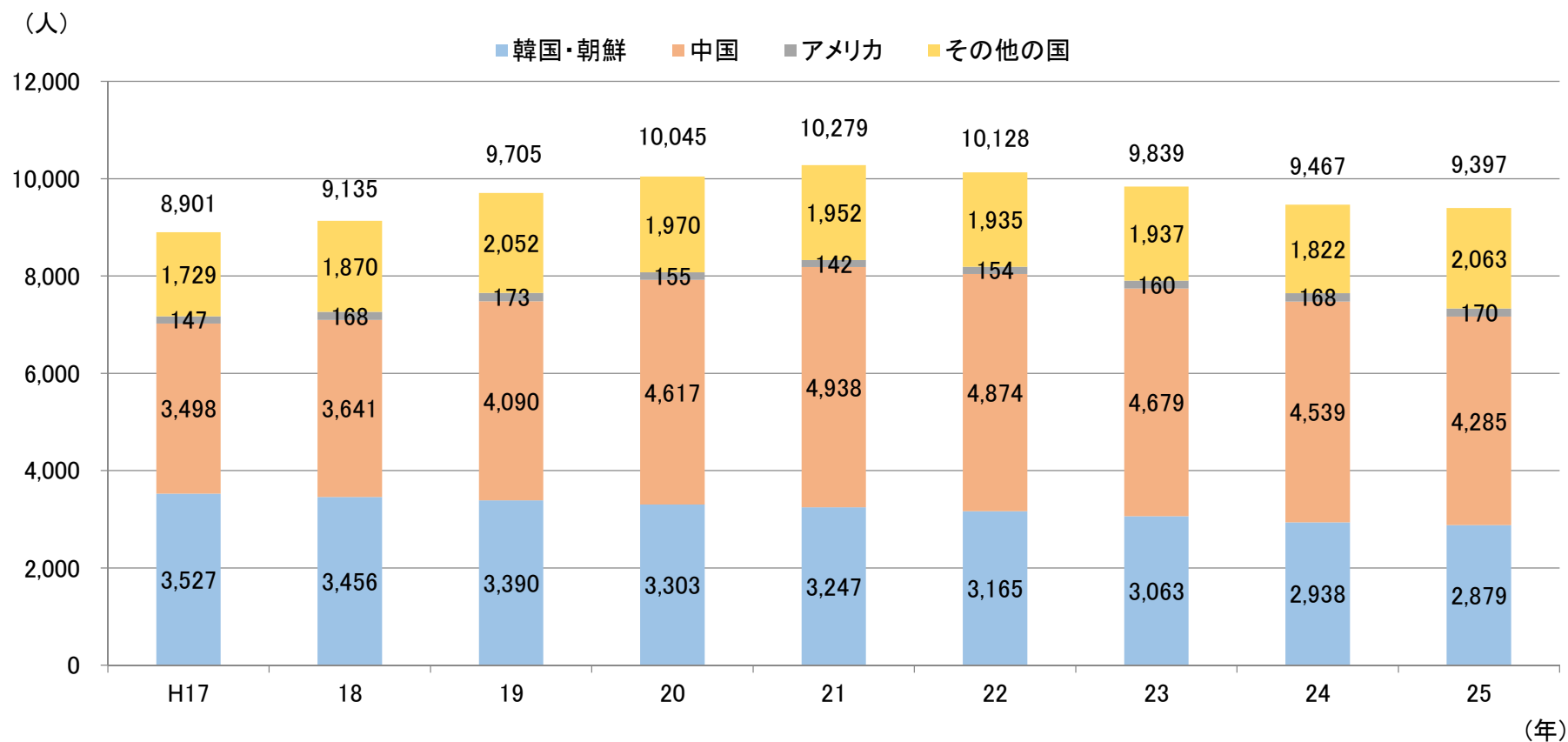
[岡山市] ESDを知っている 15.4% 岡山市市民意識調査(2013)  
 [全 国] ESDを知っている 2.7% 言葉は聞いたことある 16.4%  
 内閣府(2014)



For more information  
 The Global RCE Service Centre  
 Education for Sustainable Development Programme  
 United Nations University - Institute of Advanced Studies (UNU-IAS)  
 Yokohama, Japan  
[rceservicecentre@ias.unu.edu](mailto:rceservicecentre@ias.unu.edu)

# 岡山市における外国人人口の推移

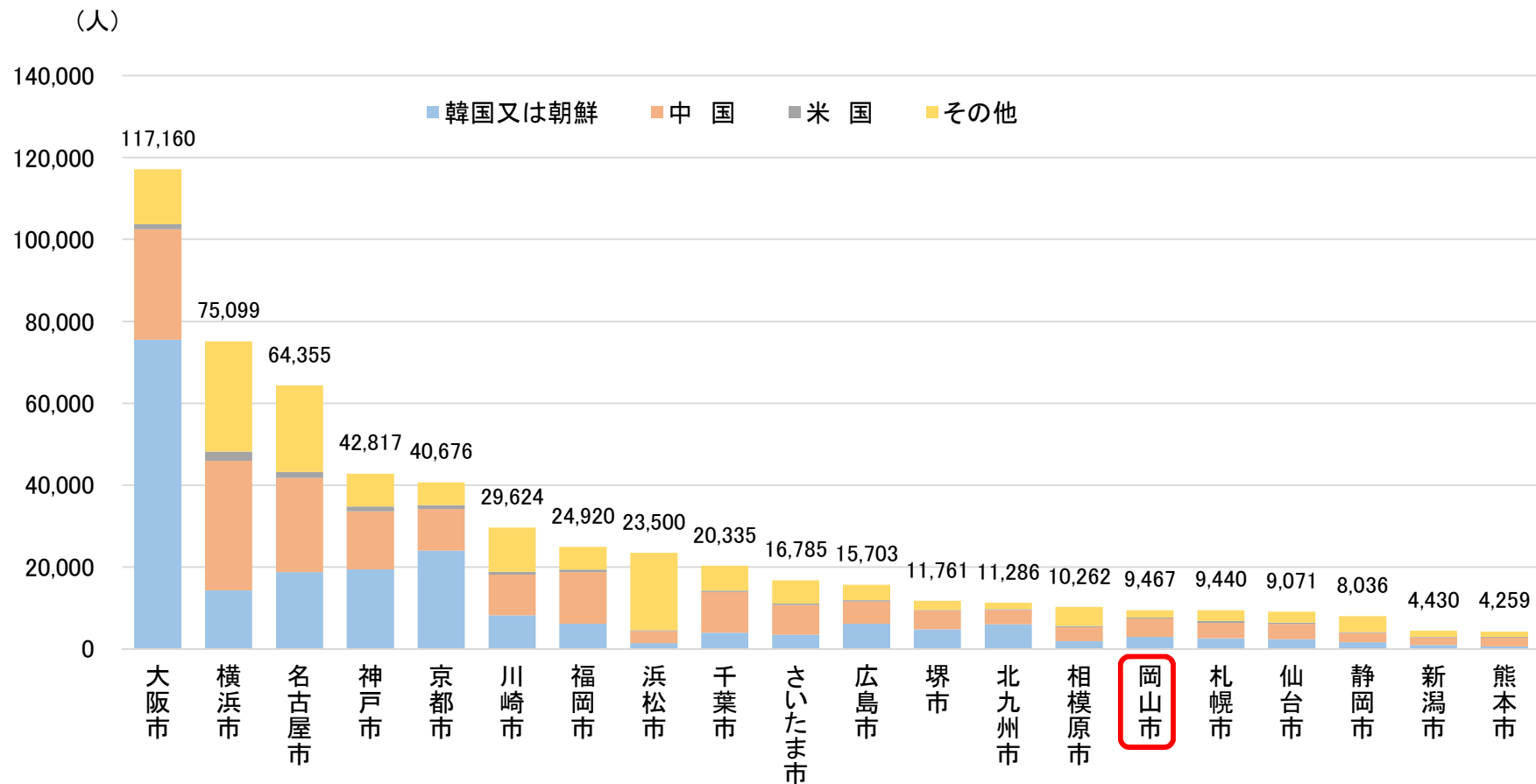
- 岡山市の外国人人口は、平成21年をピークに減少傾向になっている。
- 国籍では、中国が最多、しかし、平成21年をピークに減少している。
- 韓国・朝鮮は平成6年をピークに減少が継続している。



資料：岡山市（H23まで）  
住民基本台帳人口（外国人）（H24以降）

# 指定都市別 外国人人口(国籍別)

○岡山市の平成24年12月末の外国人人口は、指定都市の中で15番目に多い。



資料:大都市比較統計年表(H24/12月末現在)

# 岡山市の国際友好交流都市・地域

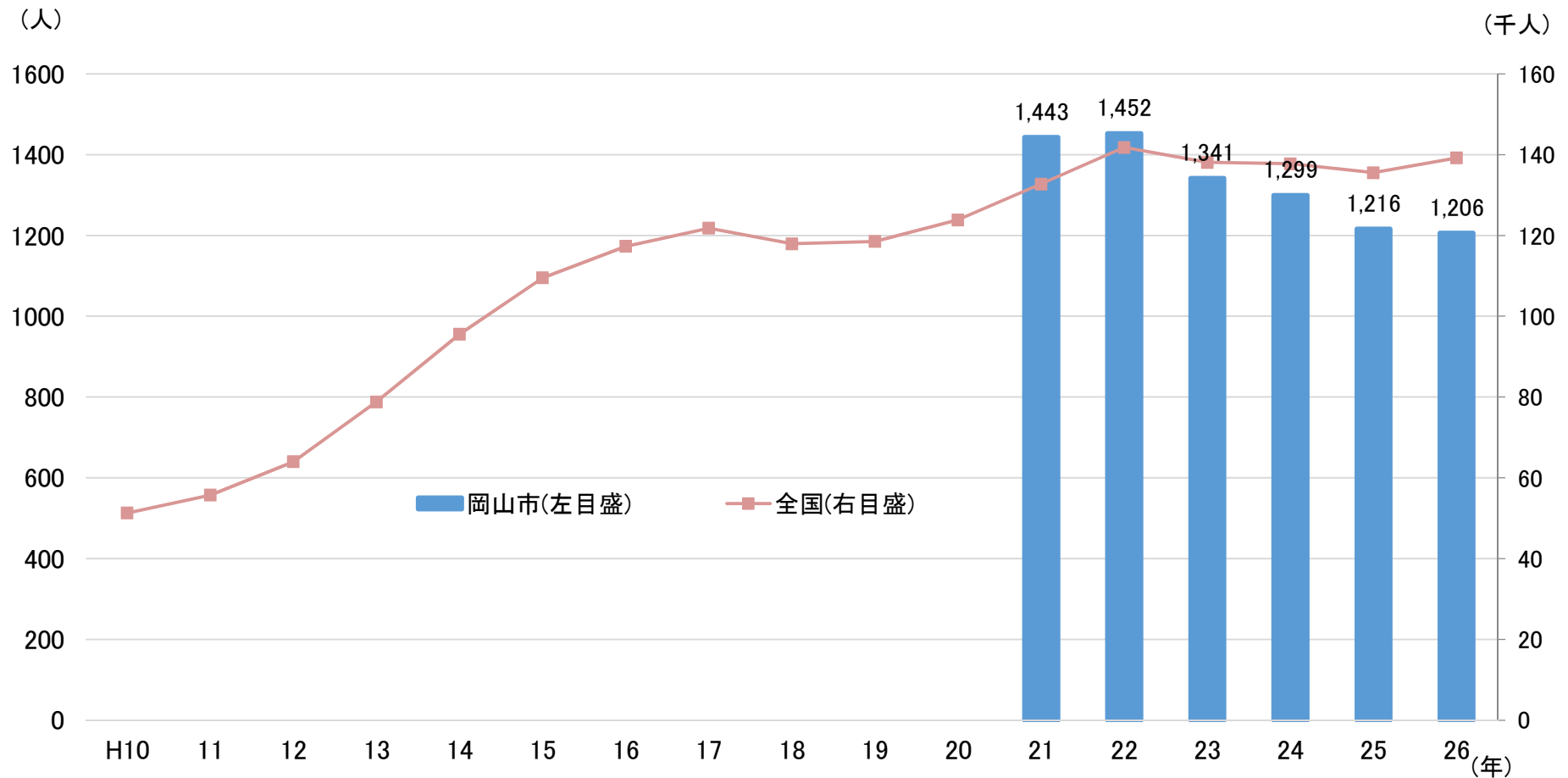
○岡山市は8つの国際友好交流都市・地域と交流している。





# 岡山市の外国人留学生数の推移

○岡山市の外国人留学生数は、H22年度以降減少している。

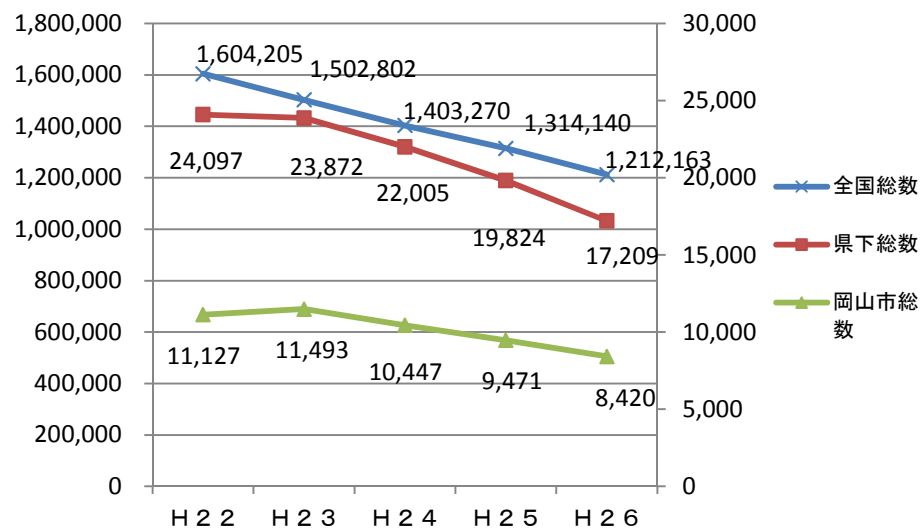


資料: 岡山県留学生交流推進協議会[岡山市(左目盛)]  
(独)日本学生支援機構[全国(右目盛)]  
いずれも各年5月1日現在

# 岡山市の刑法犯認知件数の推移

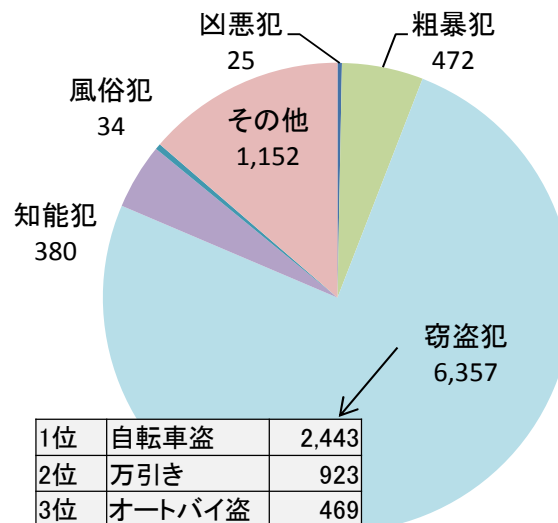
- 岡山市の刑法犯認知件数は、過去5年間でみると減少傾向にある。
- 刑法犯の特徴としては、窃盗犯が4分の3を占めており、その中でも自転車盗が2,443件と最多である。
- 平成26年の人口千人あたり刑法犯発生件数は、指定都市の中で8位である。

刑法犯認知件数の推移



	H22	H23	H24	H25	H26
全国総数	1,604,205	1,502,802	1,403,270	1,314,140	1,212,163
県下総数	24,097	23,872	22,005	19,824	17,209
岡山市総数	11,127	11,493	10,447	9,471	8,420
岡山市対前年比	—	103.3%	90.9%	90.7%	88.9%

平成26年 岡山市の刑法犯認知件数



平成26年 人口千人あたり刑法犯発生件数 政令指定都市(暫定)

順位	都市名	件数	順位	都市名	件数
1	大阪市	23.71	11	札幌市	9.41
2	堺市	16.09	12	仙台市	9.25
3	福岡市	15.38	13	新潟市	8.99
4	名古屋市	14.93	14	広島市	8.73
5	京都市	13.03	15	相模原市	8.07
6	千葉市	12.75	16	静岡市	7.79
7	神戸市	12.52	17	熊本市	7.44
8	岡山市	11.77	18	川崎市	7.31
9	北九州市	11.70	19	横浜市	7.04
10	さいたま市	10.22	20	浜松市	6.66

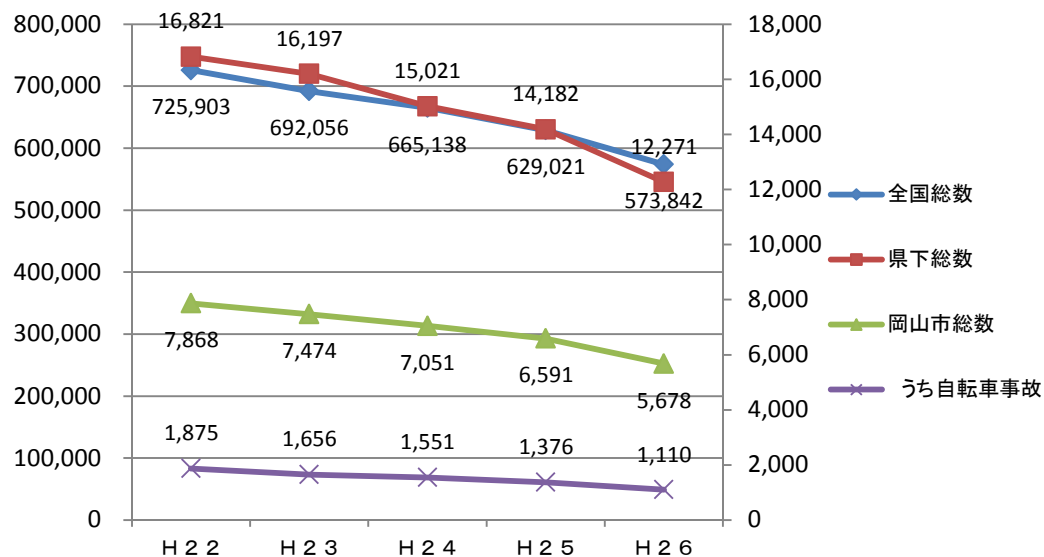
資料:岡山市

# 岡山市の交通事故(うち人身事故)件数の推移ほか



○岡山市の交通事故のうち人身事故件数は減少傾向にある。  
 ○平成26年の人口10万人あたり交通事故死者数は、指定都市の中で3位である。  
 ○人身事故のうち自転車事故の占める割合は約2割であり、2003年から2012年にかけての自転車乗用中の事故発生率は、人口10万人以上の289都市の中で6位である(毎日新聞算出)。

交通事故のうち人身事故件数



平成26年 人口10万人あたり死者数 政令指定都市(暫定)

順位	都市名	死者数	順位	都市名	死者数
1	浜松市	3.54	11	川崎市	1.92
2	神戸市	3.12	12	大阪市	1.90
3	岡山市	2.94	13	仙台市	1.86
4	新潟市	2.72	14	名古屋市	1.80
5	広島市	2.61	15	堺市	1.79
6	熊本市	2.56	16	横浜市	1.78
7	北九州市	2.39	17	福岡市	1.77
8	千葉市	2.28	18	さいたま市	1.67
9	相模原市	2.21	19	京都市	1.43
10	静岡市	1.98	20	札幌市	1.08

	H22	H23	H24	H25	H26
全国総数	725,903	692,056	665,138	629,021	573,842
県下総数	16,821	16,197	15,021	14,182	12,271
岡山市総数	7,868	7,474	7,051	6,591	5,678
うち自転車事故	1,875	1,656	1,551	1,376	1,110
自転車事故率	23.8%	22.2%	22.0%	20.9%	19.5%
岡山市の死者数	31	26	33	33	21

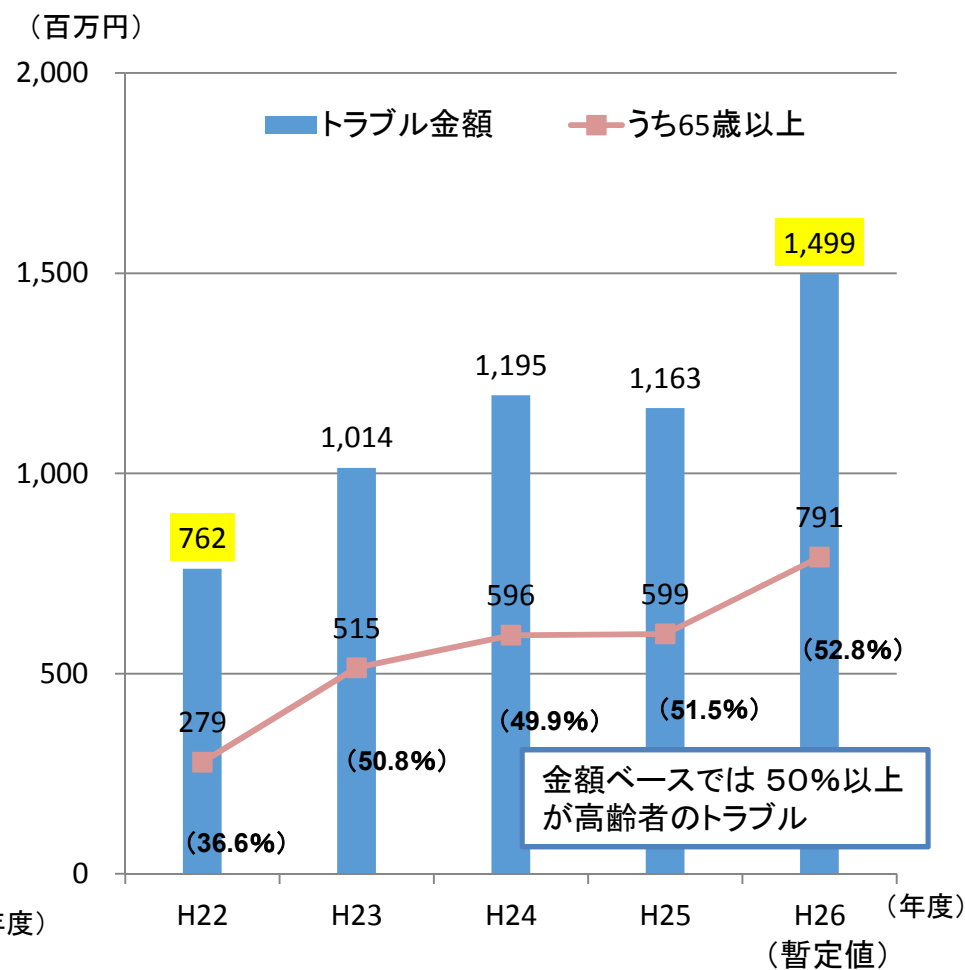
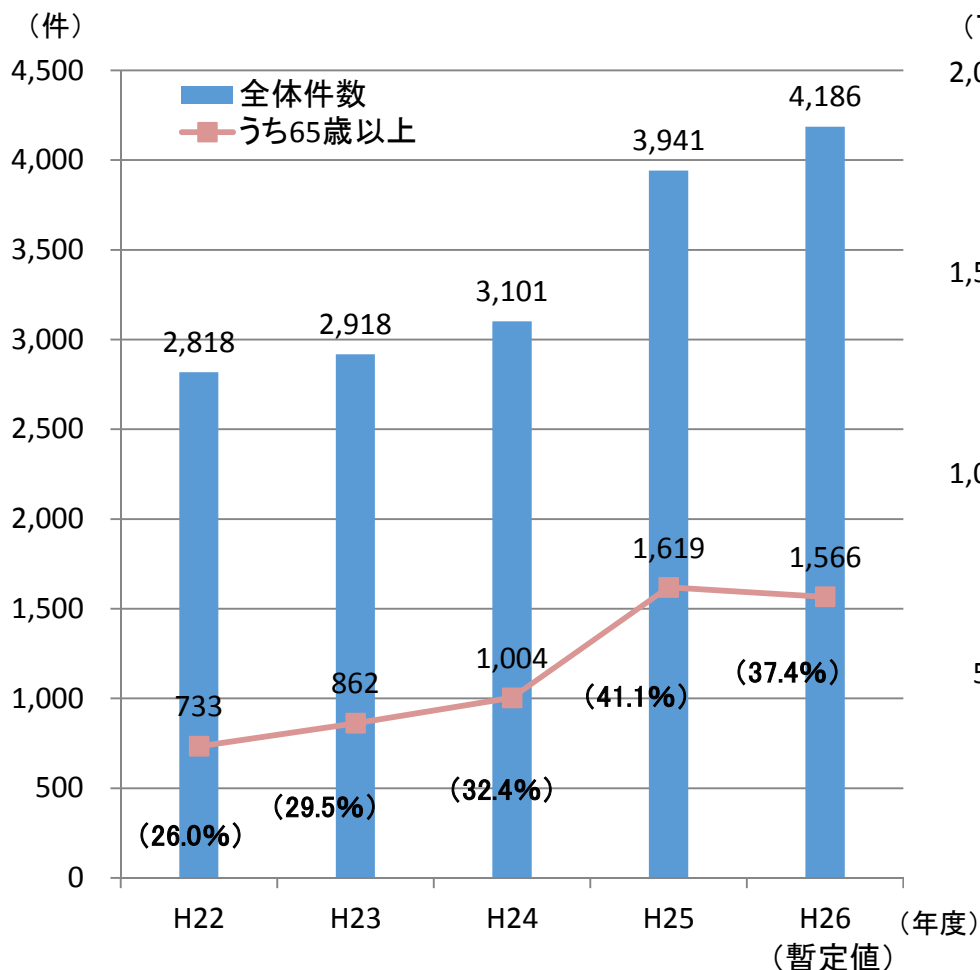
自転車乗用中の死傷事故発生率(毎日新聞算出)'03~'12  
人口10万人以上の289都市中

①草加市	②戸田市	③高松市	④台東区	⑤東大阪市	⑥岡山市
------	------	------	------	-------	------

資料:岡山市

# 岡山市の消費生活相談状況

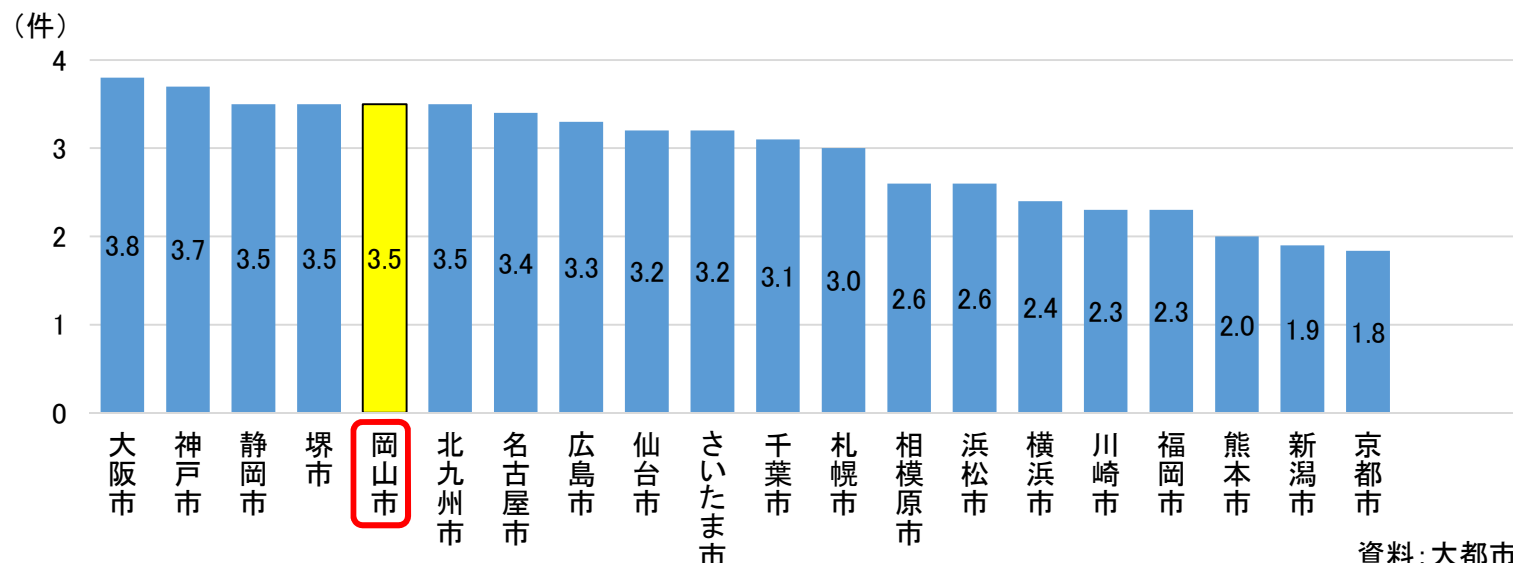
○契約トラブルなどの消費生活相談件数は年々増加しており、そのうち高齢者(65歳以上)が占める割合が高まっている。  
 ○契約トラブルの金額は、平成22年度から26年度までの4年間で約2倍に急増している。金額ベースでは50%以上が高齢者のトラブルとなっている。



資料:岡山市

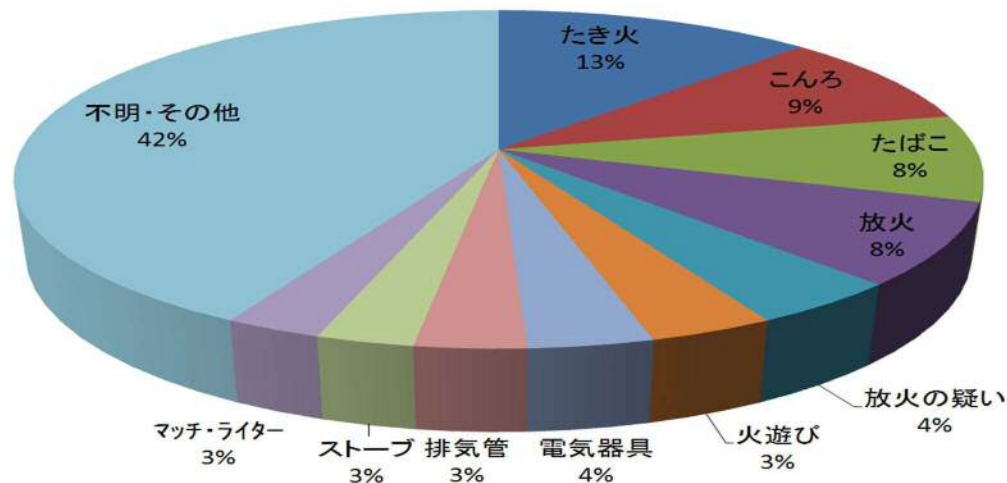
# 指定都市別 人口1万人あたり出火件数

○岡山市における人口1万人当たりの出火件数は3.5件で、指定都市の中で、大阪市、神戸市、静岡市、堺市に次いで5番目に多い。



資料:大都市比較統計年表(H24)

岡山市における出火原因(平成24年火災件数:254件)

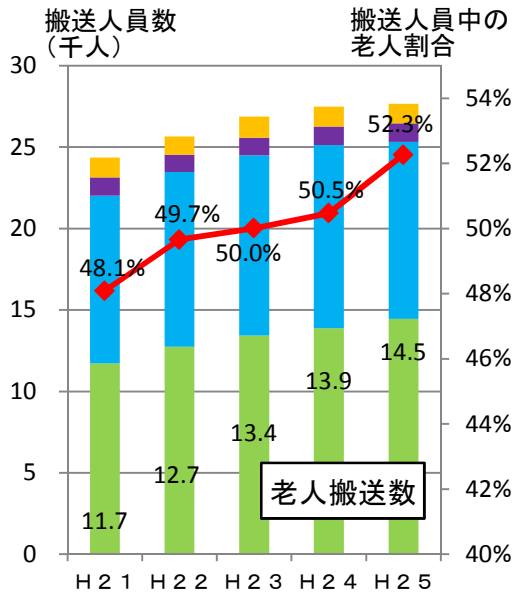


資料:岡山市

# 救急需要の増大と救急活動時間の延長データ

- 岡山市は全国と同様に高齢化が進み、救急件数の増加が続く中、高齢者の搬送割合が高くなっている。
- 救急件数の増加に対し、救急隊の増加割合は少なく、平成21年と25年を比較すると、1隊あたりの救急件数は全国で133.8件、岡山市で126.8件増加している。
- 1隊あたりの負担増加に伴い、全国、指定都市平均の現場到着時間は延びているが、岡山市では消防署所の適正配置等により平成25年に若干短縮している。
- 病院到着時間は、救急件数の増加等により、延長し続けている。

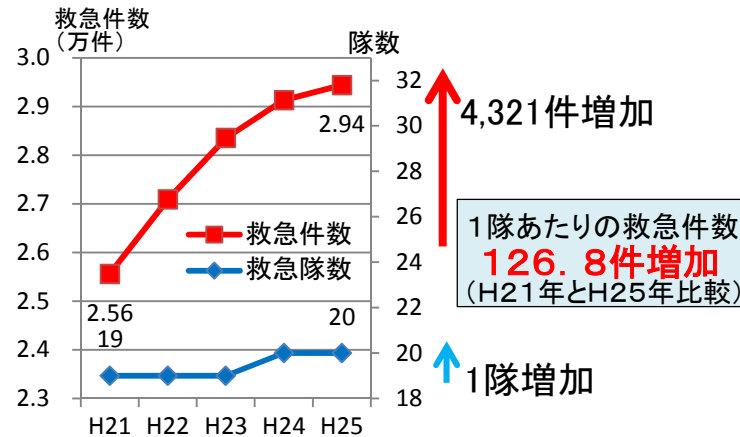
### 岡山市の救急搬送人員の年齢構成



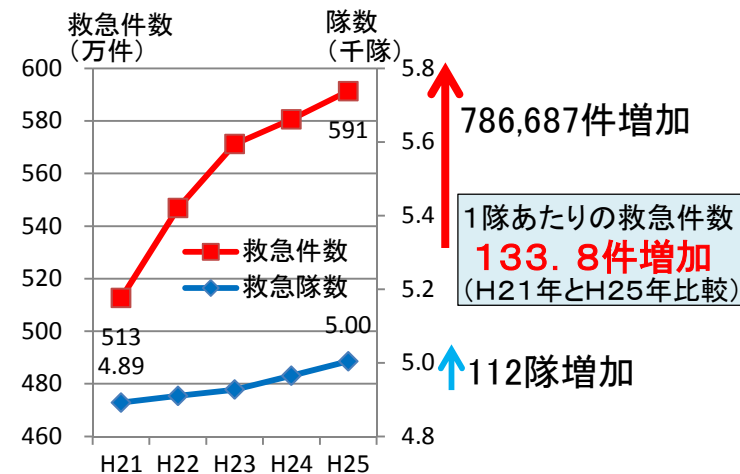
- 新生児、乳幼児 (6歳以下)
- 少年 (7~17歳)
- 成人 (18~64歳)
- 老人 (65歳以上)
- 搬送人員中の老人割合

搬送人員中の老人の割合  
**4.2%の増加**  
 (H21年とH25年比較)  
**H23年以降50%超**

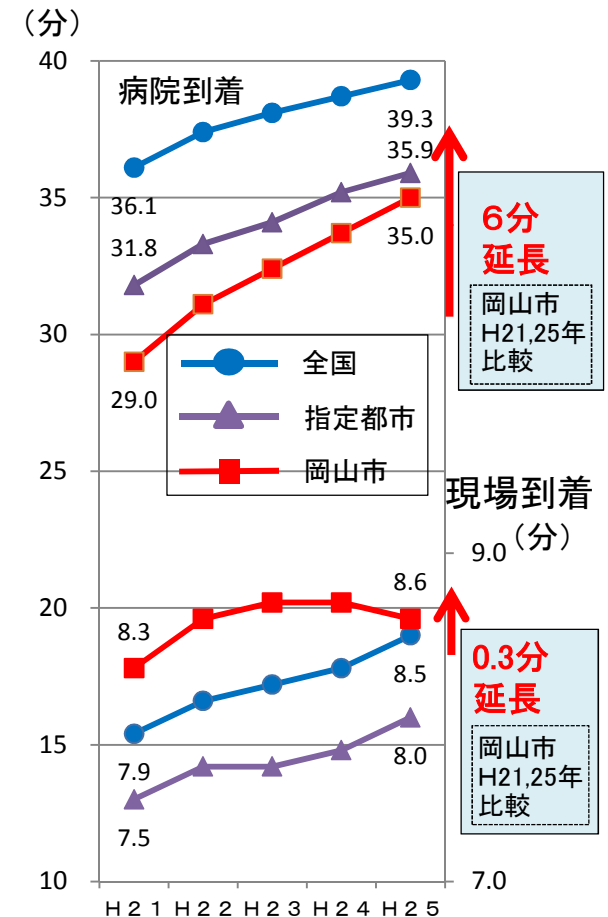
### 岡山市の救急件数と救急隊数



### 全国の救急件数と救急隊数



### 入電から現場到着及び病院到着時間



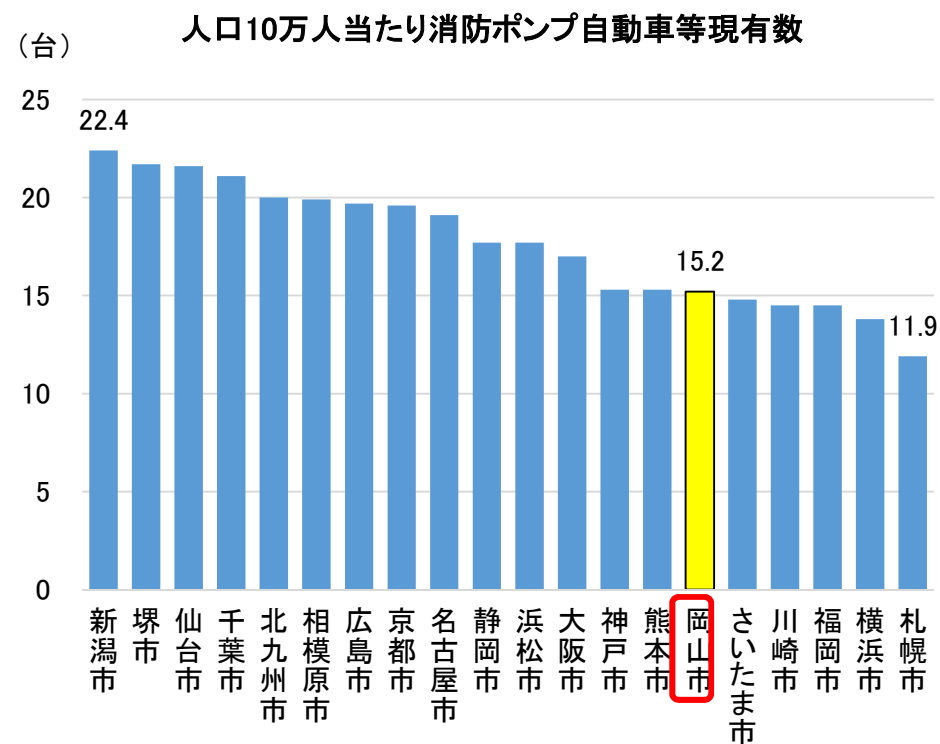
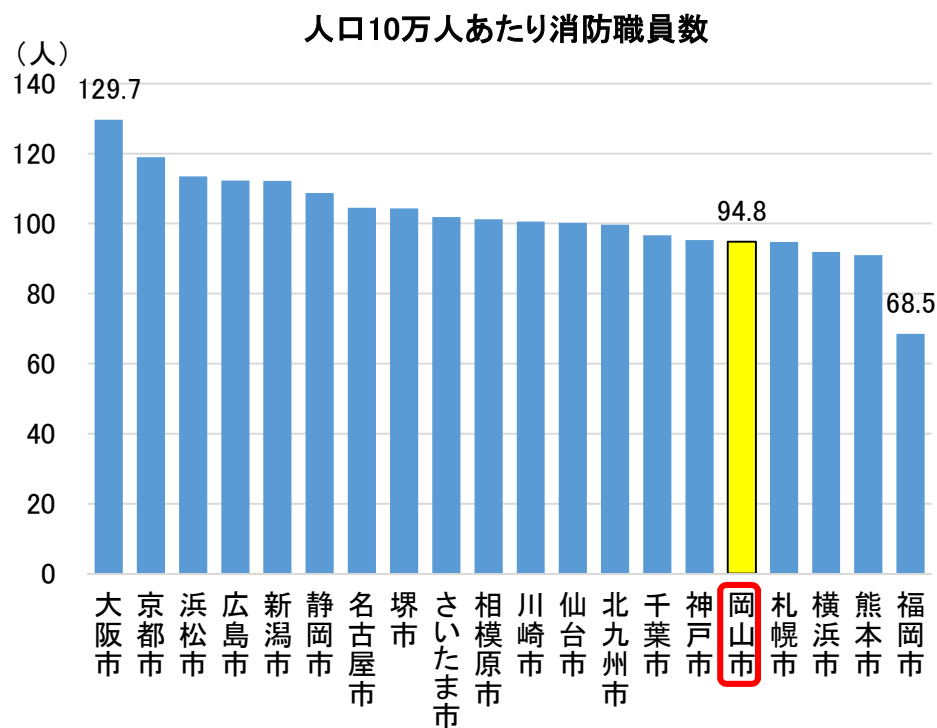
資料:岡山市

# 指定都市別 人口10万人当たり消防職員数、消防車両数



○本市における人口10万人当たりの消防職員数は94.8人で、政令市の中で、福岡市、熊本市、横浜市、札幌市に次いで5番目に少ない。

○本市における人口10万人当たり消防ポンプ自動車等現有数は15.2台で、札幌市、横浜市、福岡市、川崎市、さいたま市に次いで、6番目に少ない。



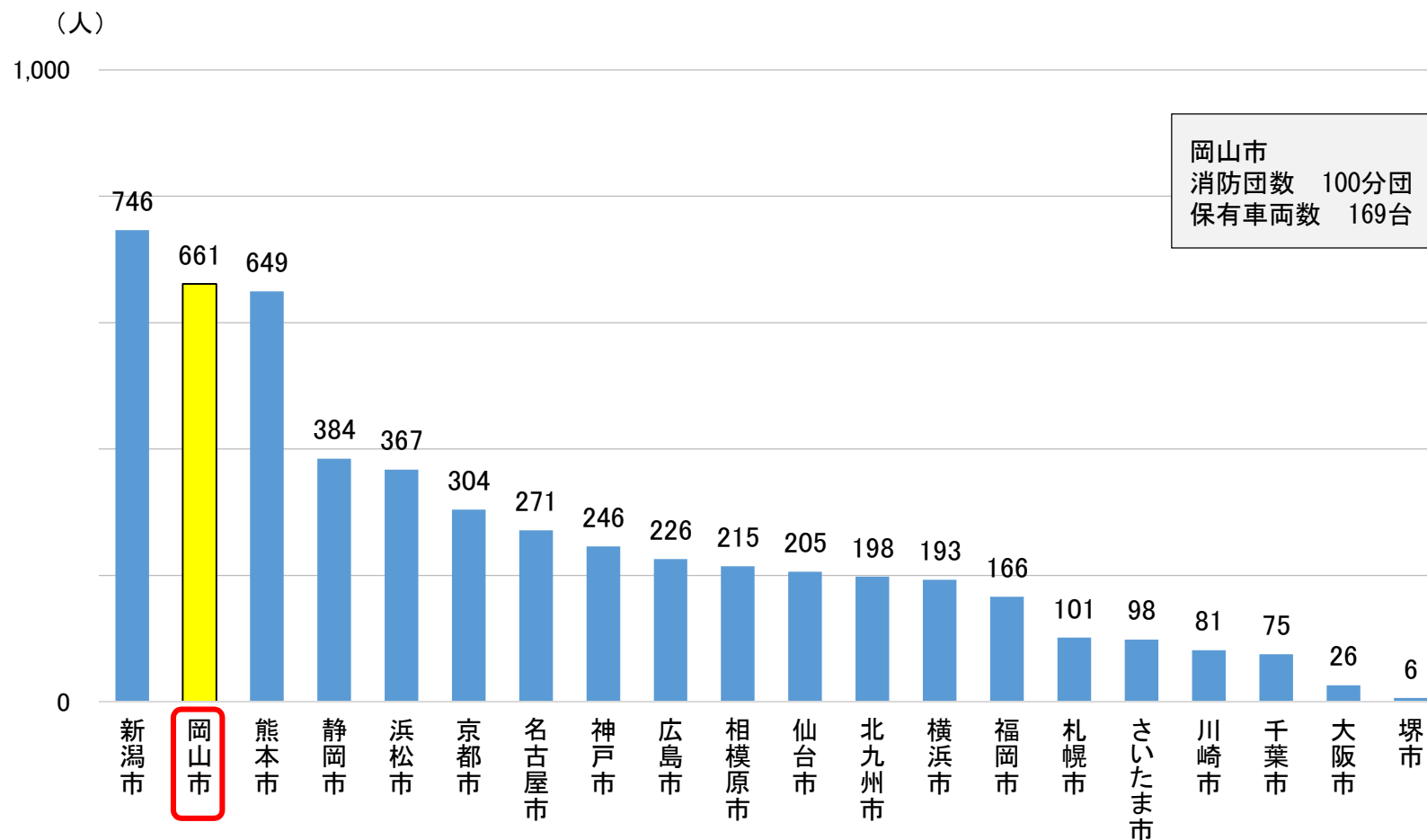
資料：：大都市比較統計年表(H24)

# 指定都市別 人口10万人あたり消防団員数



○岡山市における人口10万人あたり消防団員数は661人で、指定都市の中で、新潟市に次いで2番目に多い。

注：消防団員は、普段は一般市民として生業を持ちながら、自分たちの地域は自分たちで守ることを理念に災害発生時や訓練時に出勤する、非常勤特別職の地方公務員。

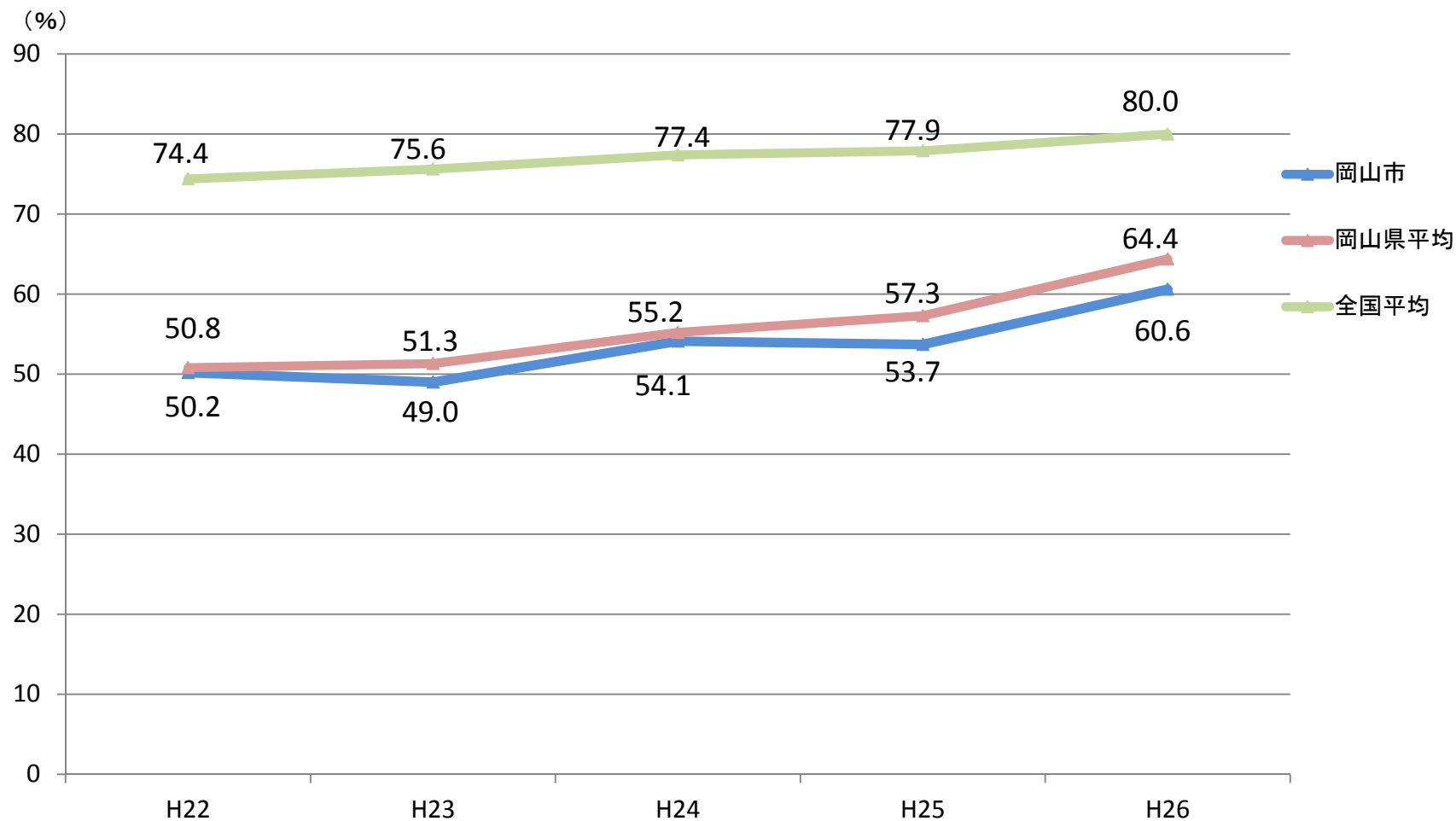


資料：消防庁



# 岡山市の自主防災組織の組織率の推移

○岡山市の自主防災組織率は、東日本大震災を契機とする防災意識の高まりから、平成24年に向上した。また、平成25年度に小学校区毎の市民説明会を行ったことから、平成26年に組織率は向上した。○しかしながら、全国と比べると依然として低い状況である。

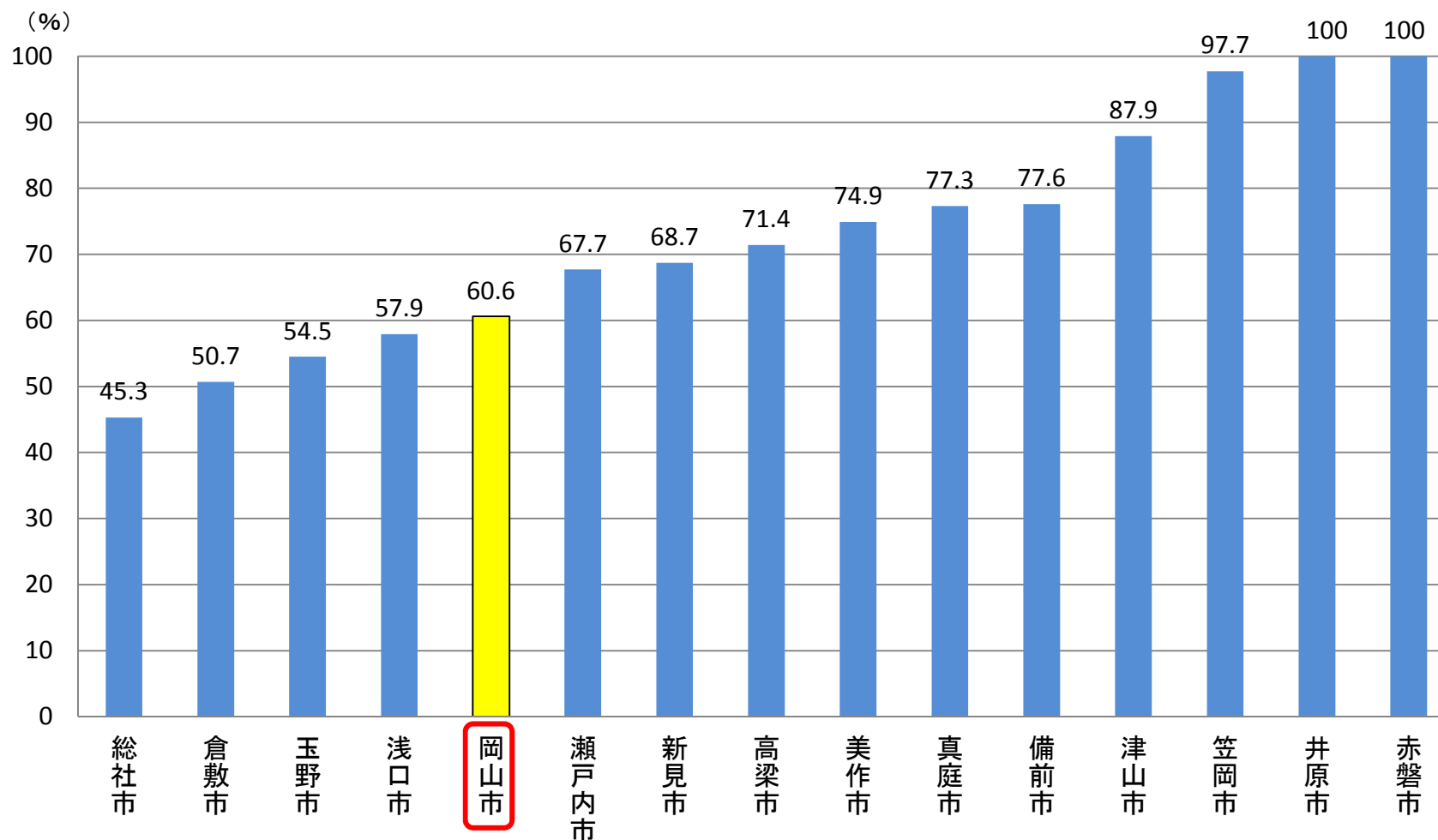


※平成24年から平成25年にかけての組織率の低下は、平成24年7月9日に住民基本台帳法が改正され、外国人世帯を世帯数に計上することになった影響によるもの。

資料: 岡山市

# 岡山県内の自主防災組織率の比較

○岡山県内の他都市と比較しても岡山市の自主防災組織の組織率は低く、今後さらに結成を促進していく必要がある。



資料: 岡山市 (H26.4.1現在)

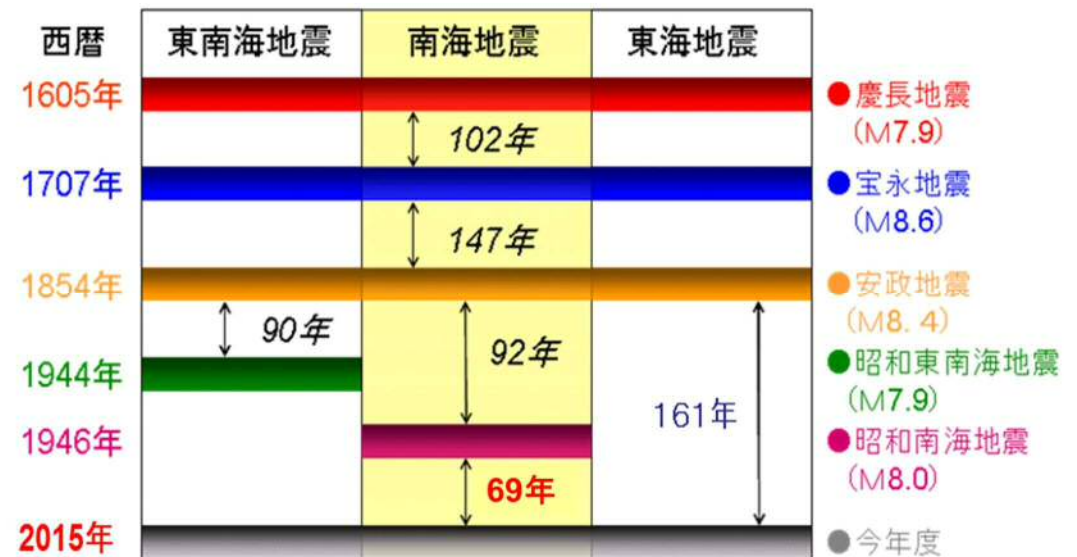
# 南海トラフ巨大地震の想定震源域と発生確率

- 平成23年12月に南海トラフ巨大地震の新たな想定震源域が公表された。
- 東海、東南海、南海地震ともに、地震の周期は概ね100年から150年。東海地震については、既に周期を超えた状況である。
- 平成26年1月の地震調査研究推進本部の発表によると、南海トラフ全域で今後30年間にM8～M9クラスの地震が発生する確率は70%程度。

南海トラフ巨大地震の想定震源域



東海、東南海、南海地震の発生年表



**今後30年間にM8～M9クラスの地震が発生する確率は70%程度**

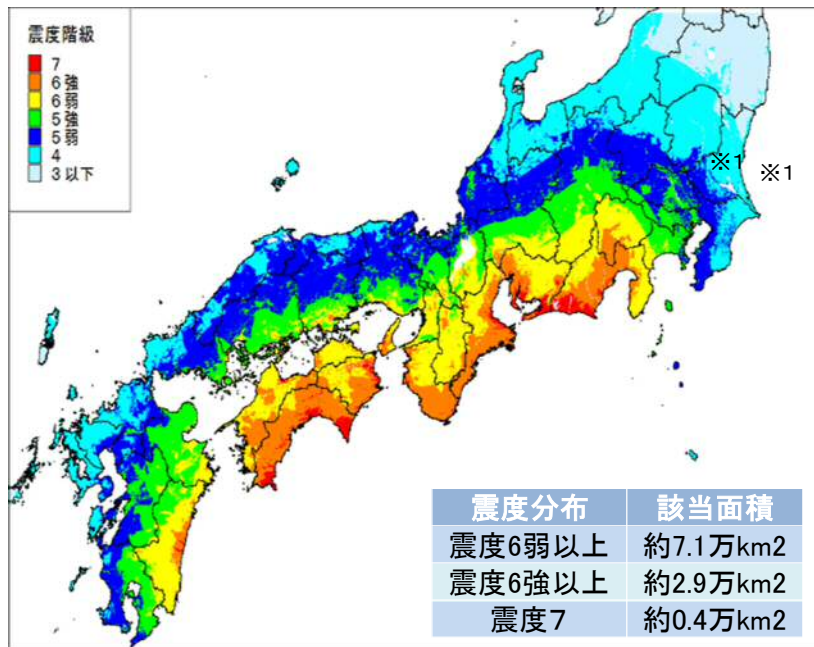
資料：地震調査研究推進本部（平成26年1月）

# 南海トラフ沿いで発生する大規模な地震による被害

○南海トラフ沿いで科学的に想定し得る最大規模(M9クラス)の地震は、千年に一度あるいはそれよりもっと発生頻度は低いとされているが、仮に南海トラフ沿いで大規模な地震が発生すれば、超広域にわたる甚大な被害の発生が想定される。

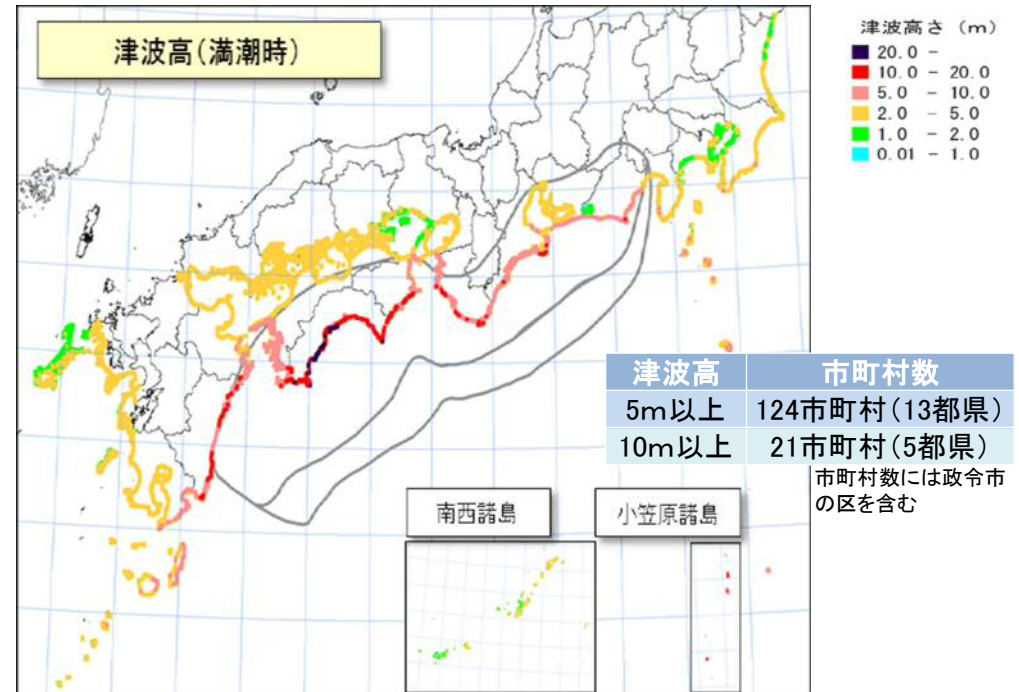
## 震度の最大値の分布図(重ね合わせによる)

推計した5ケースの震度分布(強震波形計算による震度分布4ケースと経験的手法による震度分布)を重ね合わせたもの



## 南海トラフ巨大地震による津波高分布

【ケース④「四国沖」に大すべり域+超大すべり域を設定】



## 南海トラフ巨大地震の被害想定(被害が最大となるケース)

	マグニチュード <sup>※1</sup>	浸水面積	浸水域内人口	死者・行方不明者	建物被害(全壊棟数) <sup>※2</sup>
東北地方太平洋沖地震	9.0	561km <sup>2</sup>	約62万人	約18,800人 <sup>※2</sup>	約130,400棟 <sup>※2</sup>
南海トラフ巨大地震	9.0(9.1)	1,015km <sup>2</sup> <sup>※3</sup>	約163万人 <sup>※3</sup>	約323,000人 <sup>※4</sup>	約2,386,000棟 <sup>※5</sup>
倍率		約1.8倍	約2.6倍	約17倍	約18倍

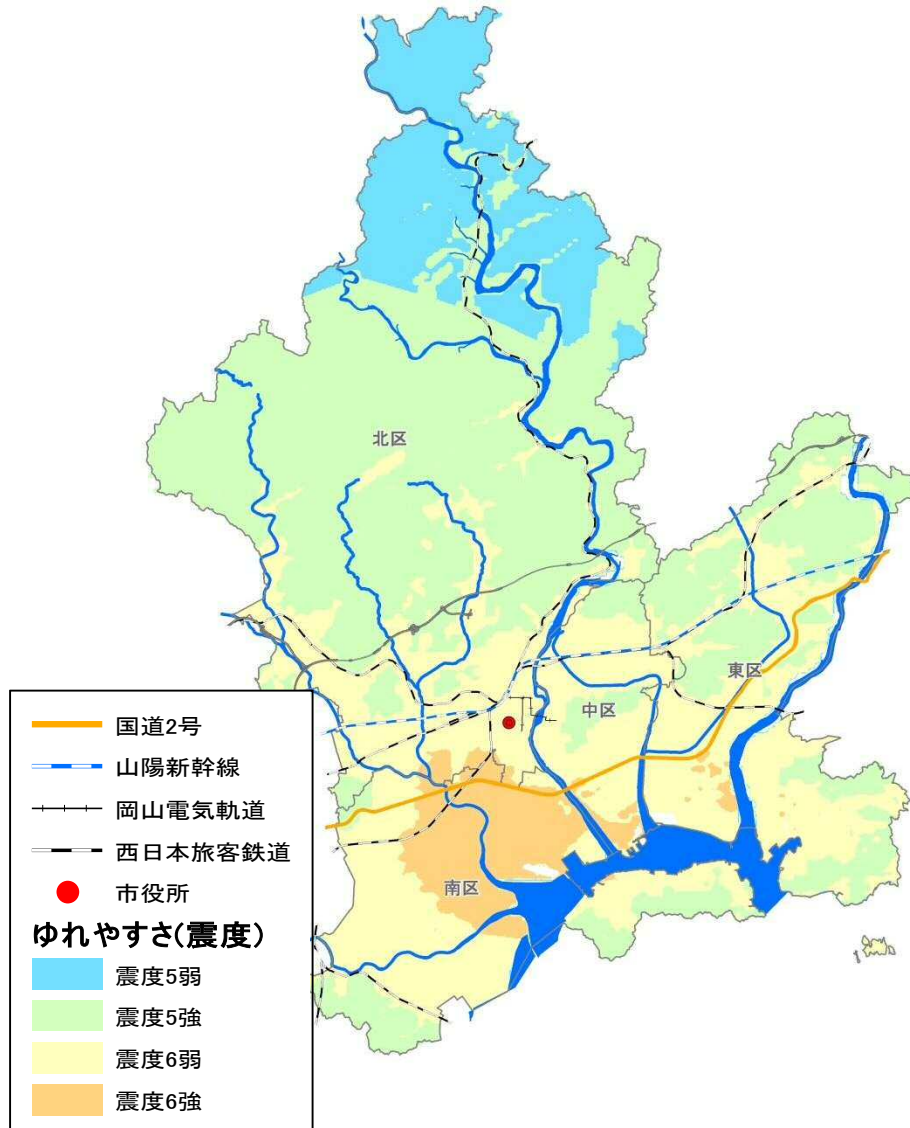
※1: ( )内は津波のMw、※2: 平成24年6月26日緊急災害対策本部発表、※3: 堤防・水門が地震動に対して正常に機能する場合の想定浸水区域、※4: 地震動(陸側)、津波ケース(ケース①)、時間帯(冬・深夜)、風速(8m/s)の場合の被害、※5: 地震動(陸側)、津波ケース(ケース⑤)、時間帯(冬・夕方)、風速8m/sの場合の被害

資料: 中央防災会議(平成26年3月28日)

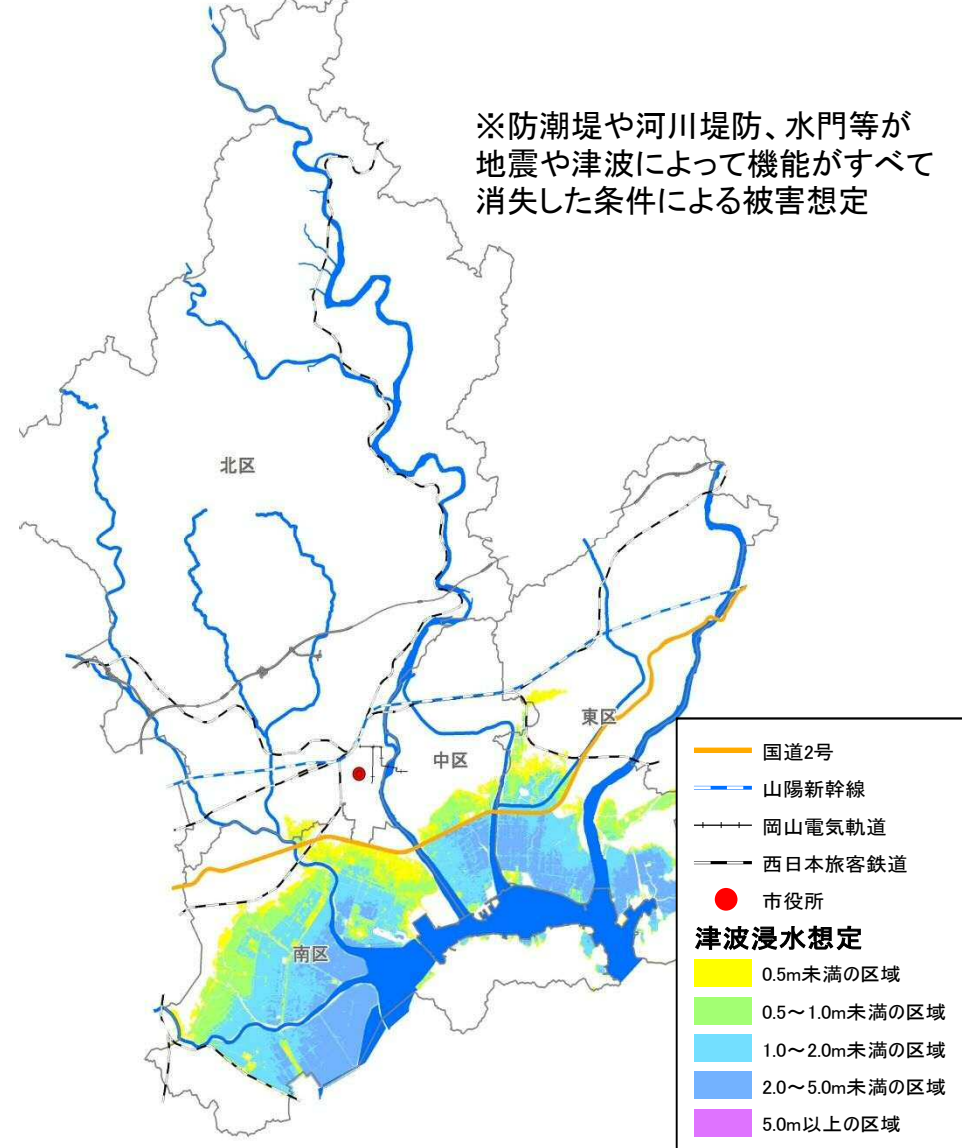
# 南海トラフ巨大地震による岡山市の被害想定

○地震は最大震度6強を、津波は南区小串で最大2.6m(海拔高)を想定している。

【震度分布図】



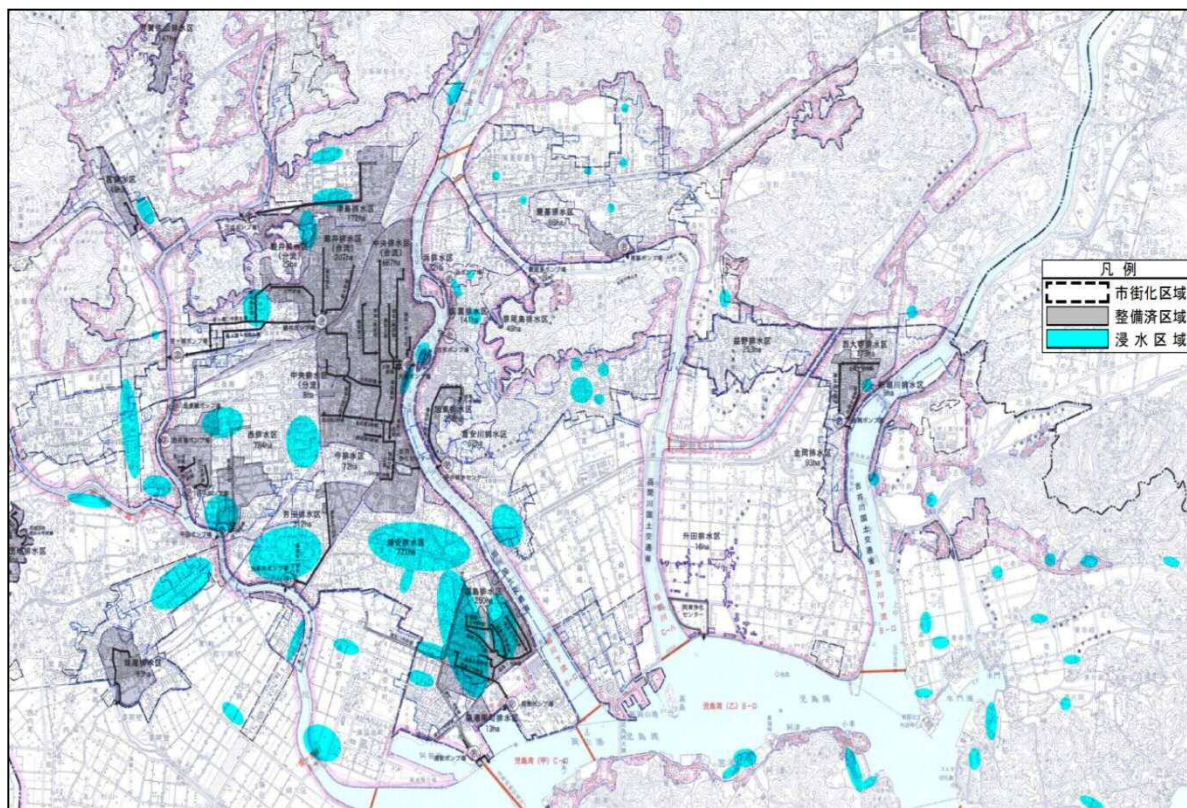
【津波分布図】



# 岡山市の浸水被害の状況

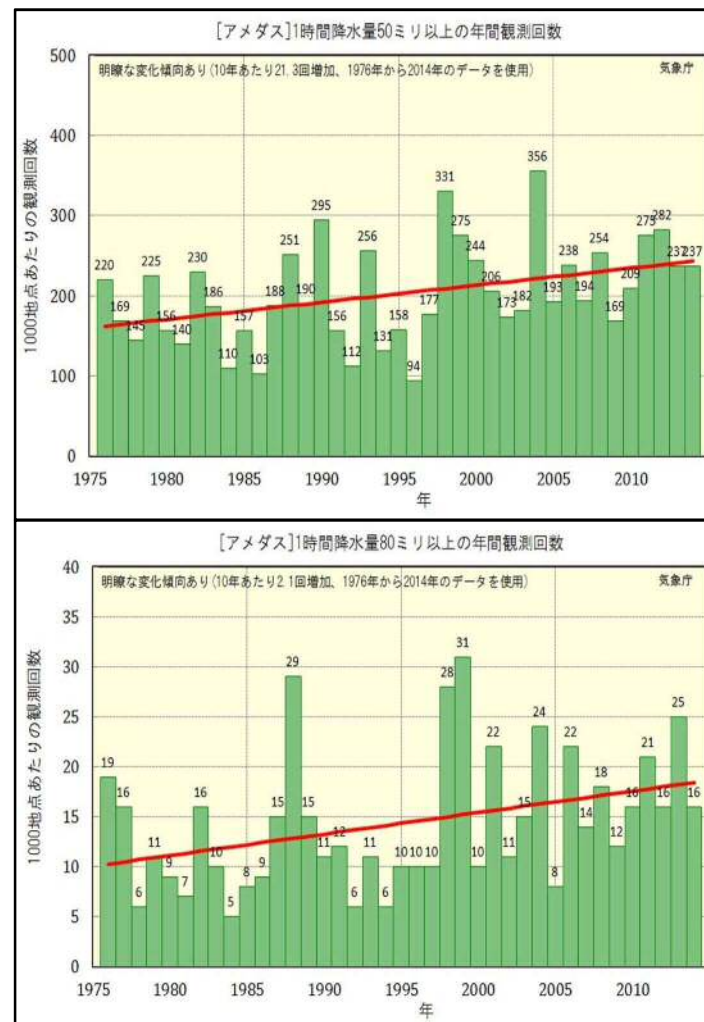
- 平成23年の台風12号では、過去最大級の降雨により床下浸水4,445世帯、床上浸水135世帯の大きな浸水被害が発生した。
- 近年、台風が大規模化するとともに、全国的に短期間集中豪雨が増加している。

平成23年の台風12号による浸水発生地区



資料：岡山市

短期間集中豪雨発生回数(全国)



資料：気象庁ホームページより